

1421
810

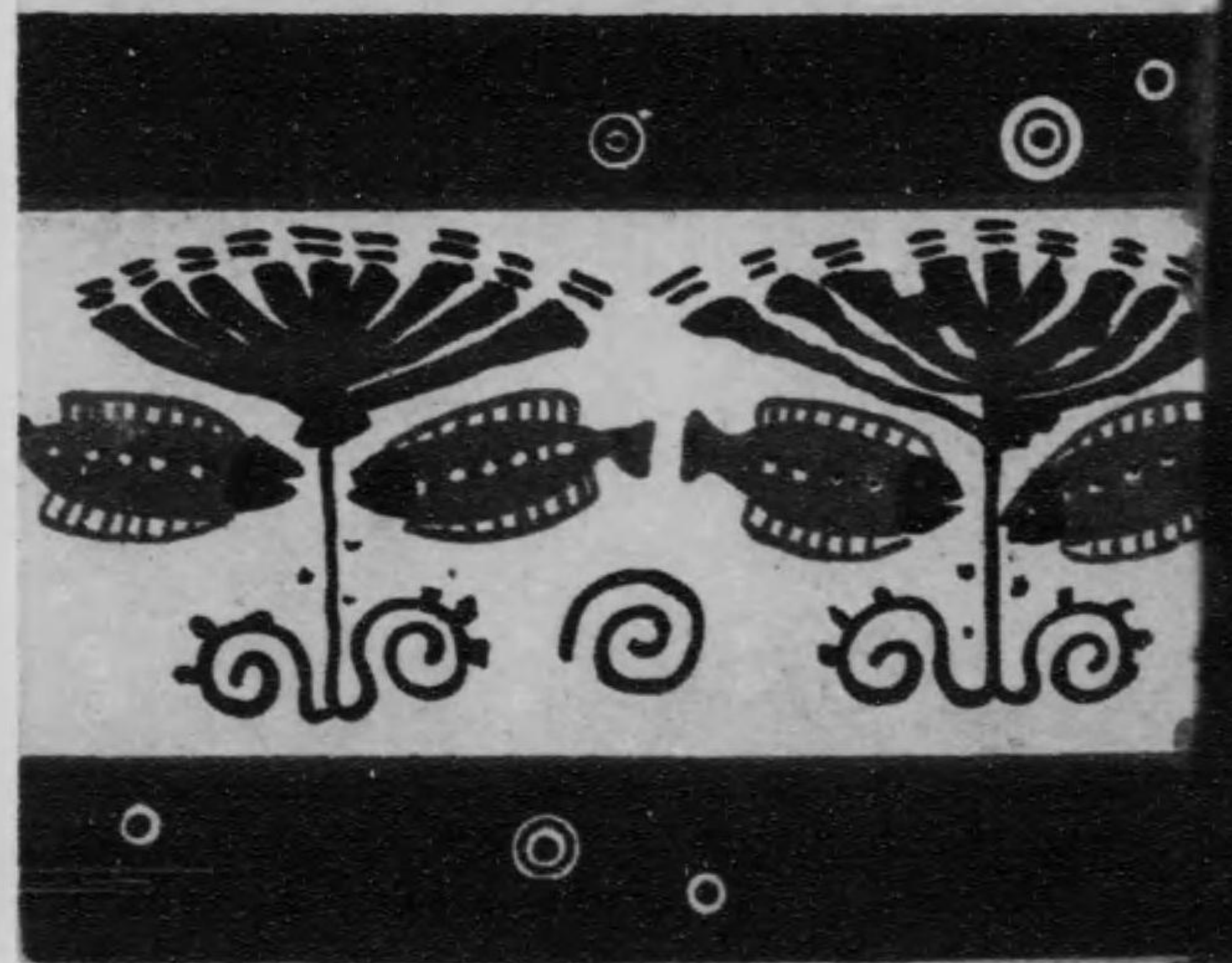


始



14.24
8/12

水田縣水產試驗場要覽



14-21-8/12

言 緒

緒言

本縣ノ地勢ハ奥羽ノ西北部ニ位シ西方ハ渺茫タル日本海ニ面シ他ノ三面ハ
 ラ以テ宮城、山形、青森、岩手ノ四縣ニ接ス沿海ハ由利、河邊、南秋田、山本
 ノ四郡ニ亘リ海岸線長五十六里餘八郎湖岸線ノ二十里餘ト青森縣ニ接セ
 十二里ノ和田湖アリ其他田澤湖ヲ始メ水面積一萬坪以上ノ湖沼六十餘所
 池二萬四千餘町步アリ水産統計ニ依レバ漁戶專業千四百五十戶人口八千五百十
 三人兼業二千二百三十七戶人口九千八百六十八人海面漁船數二千二百五十六艘
 アリ魚獲物ハ鱈、鮭、鱒、鮫、鰯、鰯、鰯、鰯、鰯等ヲ主ナルモノトシ統計五拾萬五
 千餘圓ニ過ギズ之レ素ヨリ漁業ノ所得ハ當業者ニ於テ蔭蔽スルノ弊習アルガ故
 ニ正確ノ數字ヲ統計スル事能ハズ此外大正四年本場實地調査ニ依ル八郎湖ノ漁
 獲高貳拾四萬圓アルヲ以テ本縣水産漁獲ノ累計ハ七拾四萬餘圓ナリトス之レヲ



(1)

本場創立當時明治三十三年ノ統計ニ依ル漁獲金高參拾參萬參千餘圓ニ比較スル時ハ約二倍以上ニ達シタリト雖ドモ日本海ニ於ケル各縣ノ漁獲高ニ比シ最低位ニアルハ如何ニ本縣水産事業ノ進歩ノ遅々タルヲ證スルニ足ルベク此際官民ノ共ニ銳意堅實ナル振興策ヲ樹テ水産ノ改良發達ヲ圖ラザル可ラザルナリ
從來本縣ニ於ケル斯業試驗獎勵ノ機關トシテハ僅カニ一ノ本場アリ明治三十三年創立以來歲ヲ閱スルコト十六年其間漁撈、製造、養殖ニ各種ノ試験ト調査ヲ施行シ一方ニハ講習講話若シクハ當業者ノ申請ニ依リ漁具漁船設計又ハ製造養魚等ノ指導ヲナシ間接ニ直接ニ多少縣下水産業者ヲ啓發シ斯業ノ發展ニ資シタルハ少ナカラザルベシト雖ドモ未ダ顯著ナル効果ヲ見ル能ハザルハ一ハ努力ノ足ラザルト一ハ民間斯業獎勵機關ノ缺如セルニ起因セルナランカ今ヤ水産事業ノ施設計畫スベク改良實行ヲ期スベキ事項ノ益多キ到底本場ノ獨力ヲ以テスル事容易ナラザル時ニ膺リ多年縣當業者ノ輿望タリシ水産組合ノ設立ヲ見ルニ至

リタルハ民業發展ノ機關ヲ加エタルモノナレバ大ニ新進ノ氣銳ヲ以テ日本海各縣ヲ凌駕スルノ覺悟ニテ本縣斯業ノ改善發達ヲ圖リ水産ノ福利ヲ増進セシメザルベカラザルナリ茲ニ水産組合設立ニ際シ本場既往ニ於ケル試験調査ノ概要ト水産關係ノ事項ヲ摘録シテ頒布ス
希クバ本場ノ主旨ヲ諒トセラレ氣脈相通シ協力一致シ以テ水産ノ利殖ヲ圖ラレム事ヲ望ム

大正五年十月 日

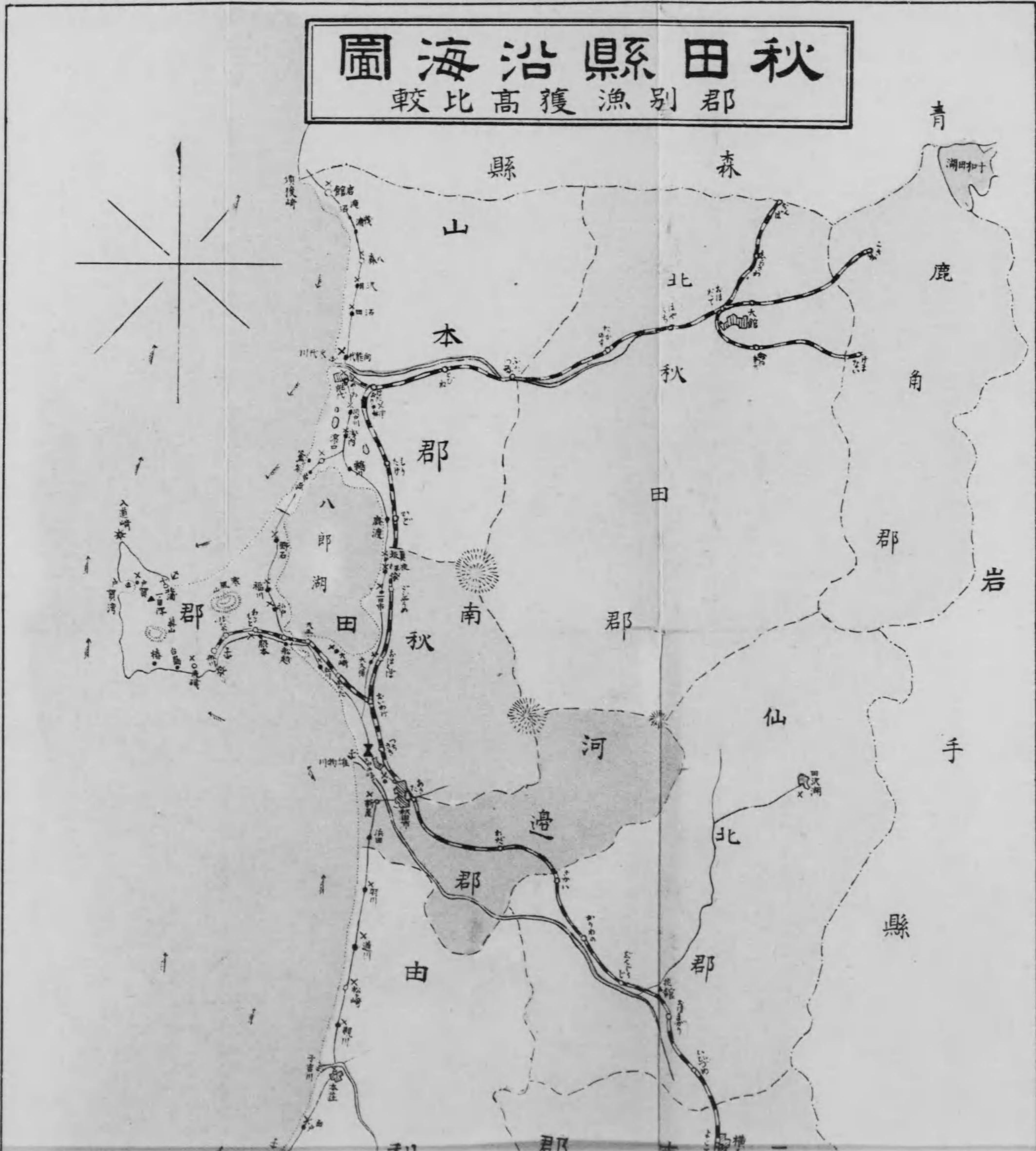
秋田縣水産試驗場

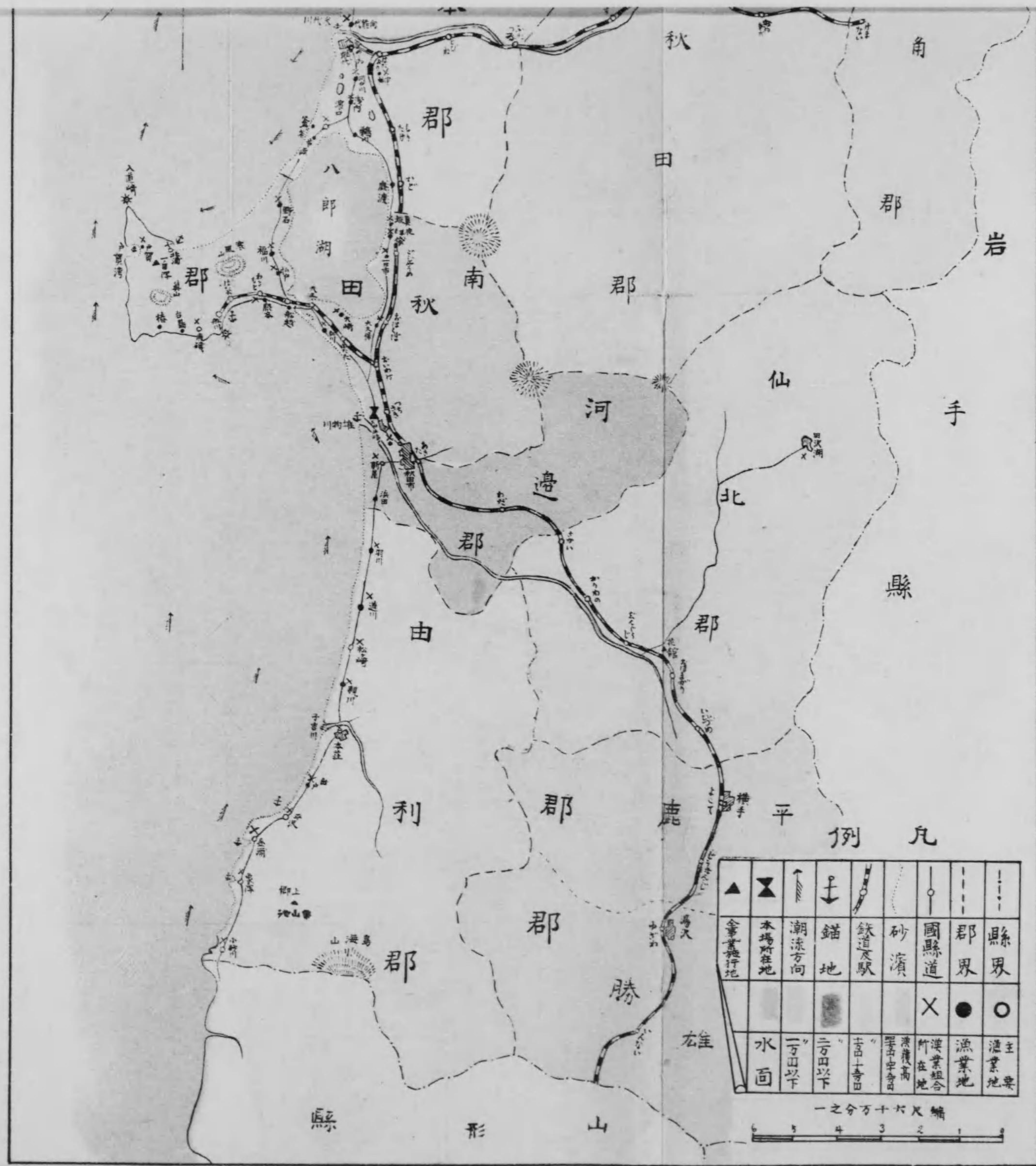
Blank page with faint smudges and a vertical crease.

Blank page with faint smudges and a vertical crease.

秋田縣沿海圖

郡別漁獲高比較





秋田縣水產試驗場要覽

目次

一、沿革	一
二、職員	二
イ、創立以來職員任免	二
ロ、現在職員及職務分掌	六
三、本場創立以來經費豫算決算	七
四、試驗事業	三
五、事業成績	二七
一、漁撈試驗	二七

干係法規

二、製造試驗.....三三
 三、養殖試驗.....三五
 一、產業試驗費國庫補助法.....三七
 二、府縣水產試驗場規程.....三六
 三、秋田縣水產試驗場處務規程.....四一
 四、鯉兒配布規程.....四二
 五、產業講習規程.....四三
 六、鮭採卵場及孵化場設置.....四七
 七、鱒人工孵化場設置.....四七
 八、本場標旗制定.....四八
 九、本場移轉.....四八
 十、空素沼養魚場設置.....四九

統計

十一、同沼捕魚禁止.....五九
 十二、本縣漁業取締規則.....五九
 十三、職漁取扱規程.....七〇
 十四、同施行手續.....七三
 十五、鑑札取扱手續.....七三
 十六、漁業法施行規則第五十六條該當漁業.....七四
 十七、漁業鑑札雛形.....七五
 十八、訓令甲第十號鑑札取扱手續.....七五
 十九、漁業鑑札.....七六
 二十、免許漁業願申請書式及登錄申請書式.....七六
 一、漁業組合表.....八五
 二、漁期一覽表.....八九

三、海面漁獲統計表.....	四
四、海面漁種別漁獲表.....	六
五、海面各村漁種別漁獲表.....	一〇一
六、郡別海岸線表.....	一一三
七、海面漁業戸數及人口表.....	一二三
八、八郎湖漁業戸數人口表.....	一二八
九、同湖漁具別漁獲統計表.....	一二九
十、同湖製造品町村別統計表.....	一三〇

秋田縣水産試験場要覽

- 沿革
- 沿革
- 一、明治三十三年三月二十三日日本場ノ設立認可アリ
 - 一、同年四月ヨリ本場ヲ南秋田郡土崎港町御藏町ニ置キ民家ヲ借り事務所トス
 - 一、同年四月十四日門脇給太郎場長ニ任命セラレタリ
 - 一、同年十二月十二日仙北郡花館鮭魚採卵場、及同人工孵化場ヲ設置ス
 - 一、三十四年六月十二日高橋榮吉場長ニ任命セラレタリ
 - 一、三十六年一月十三日仙北郡西明寺村潟尻ニ田澤湖鱒人工孵化場ヲ設置ス
 - 一、三十六年九月十一日日本場標旗ヲ定ム
 - 一、三十七年四月ヨリ三十八年二月マテ時局ノタメ陸軍糧秣廠指定ノ軍用罐詰ヲ製造シタリ
 - 一、三十八年七月二十日村上卯助場長ニ任命セラレタリ
 - 一、三十九年四月十二日南秋田郡土崎港町相染新田ニアル土崎築港事務所ノ不用縣有建物ノ保管轉換ヲ

員 職

- 受ケテ本場ヲ移轉ス
- 一、三十九年四月十四日訓令第九十五號ヲ以テ本場庶務規程ヲ改正ス
 - 一、四十年八月三十一日近藤唯介場長ニ任命セラレタリ
 - 一、四十三年四月六日森田忠三場長ニ任命セラレタリ
 - 一、四十五年七月十二日南秋田郡寺内村ニ空養沼養魚場ヲ設置ス
 - 一、大正二年四月一日南秋田郡外旭川村ニ八柳養魚場ヲ設置ス
 - 一、大正三年三月三十一日南秋田郡湯西村字道村ニ八郎湖調査所ヲ置ク
 - 一、大正四年十月六日菟田芝芽男場長ニ任命セラレタリ
 - 一、大正五年三月三十一日調査終了ニヨリ八郎湖調査所ヲ閉ザス
 - 一、大正五年六月二日鯉兒配布規程ヲ定ム

二、職員

(イ)本場創立以來ノ職員ノ更迭左ノ如シ

場 長

員 職

氏 名	任 命 年 月 日	退 職 年 月 日	在 任 年 月	摘 要
門 脇 捨太郎	明治卅三年四月十二日	明治卅四年五月廿八日	一年二ヶ月	明治卅四年四月六日技師ニ任命セラレタリ
高 椋 榮吉	卅四年六月十二日	卅八年七月廿一日	四年二ヶ月	富山縣水産講習所長ニ轉任
村 上 卯助	卅八年七月廿六日	四十年八月卅一日	二年二ヶ月	三重縣水産試験場長ニ轉任
近 藤 唯介	四十年八月卅一日	同四十二年九月廿日	二年二ヶ月	愛媛縣水産試験場長ニ轉任
森 田 忠三	同四十三年四月六日	大正四年九月卅日	五年六ヶ月	依願免職
菟 田 芝芽男	大正四年十月六日	在 職 中		

員 職

氏名	任命年月日	退職年月日	在任年月	摘	要	書記	
						職	書
大音 秀次郎	同 廿六年十二月一日	同 廿八年七月十五日	一年八月	福井縣へ轉任			
松尾 秀夫	同 廿八年九月廿九日	同 四十年二月廿五日	一年六月	依願免職			
松尾 恒治	同 四十年四月廿二日	同 四十二年四月廿二日	二年一月	岩手縣へ轉任			
野田 澄	同 四十五年七月六日	同 四十五年一月廿七日	四年七月	依願免職			
伊藤 朝	同 四十五年二月十七日	同 四十五年三月	四年一月	依願免職			
鎌田 文之助	同 四十二年四月一日			縣技手ヨリ兼任			
喜多山 昇	同 大正二年五月十四日						
赤根 金太郎	同 大正五年三月卅一日						

西野傳吉 明治卅三年四月

明治卅三年十一月

八ヶ月解任

員 職

氏名	任命年月日	退職年月日	在任年月	摘	要	技手	
						職	手
門脇 捨太郎	同 卅三年四月十二日	同 卅四年四月六日	一年一月	卅四年四月六日技師ニ任			
小西 勇	同 卅三年四月	同 卅四年五月	一年二月	轉任			
茂原 忠	同 卅四年四月六日	同 卅七年六月	三年三月	陸軍召集ニ依リ退職			
松原 榮	同 卅四年九月六日	同 卅八年六月二日	三年十月	轉任			
額田 喜市	同 卅五年五月廿三日	同 四十一年三月廿八日	五年七月	新潟縣へ轉任			

門脇 捨太郎	同 卅四年四月六日	同 卅四年五月廿八日	二年二月	富山縣へ轉任	
高松 榮吉	同 卅四年六月十二日	同 卅八年七月廿一日	四年二月	富山縣へ轉任	
村上 助	同 卅八年七月廿六日	同 四十年八月卅一日	二年二月	三重縣へ轉任	
近藤 唯介	同 四十年八月卅一日	同 四十二年九月廿日	二年二月	愛媛縣へ轉任	
森田 忠三	同 四十二年四月六日	同 四十二年九月卅日	五年六月	依願免職	
苑田 芝芽男	同 大正四年十月六日				

算決算豫費經來以立創場本

明治三十三年度	豫算高	一、五八〇・〇〇〇	明治三十三年度	決算高	一、三〇八・八三七
	決算高	一、三〇八・八三七			
年度	費目	一、一八〇・六八〇	年度	費目	一、一三三・七三九
	律給	七六三・六六六		給場	七七一・五二八
年度	雜給	一一九七・九五〇	年度	試驗費	一一八九・八二二
	給場	二〇八・〇〇〇		修繕費	二〇六・七〇〇
年度	試驗費	四、八二九・二九六	年度	經常部	四、五三八・六五六
	修繕費	二〇六・七〇〇		臨時部	
合計		四、八二九・二九六	合計		四、五三八・六五六

三、本場創立以來經費豫算決算

自明治三十三年度至大正四年度秋田縣水産試驗場經費豫算決算書

製造係	主任	技手	鎌田 文之助
養殖係	主任	技手	赤根 金太郎
庶務會計係	主任	書記	萩原 鐵藏
			瀨谷 述

員 職

(口)本場現在職員及職務分掌ハ左ノ如シ

鈴木重	任明治卅三年十一月	明治卅五年四月	一年六ヶ月	依願免職
淀川清	同 卅五年五月七日	同 卅五年六月	二ヶ月	同上
田中精	同 卅五年六月廿七日	同 卅六年九月十六日	一年四ヶ月	同上
小栗勝也	同 卅六年九月十七日	同 卅三年五月十二日	十年九ヶ月	同上
瀨谷述	同 卅三年五月廿九日	在職中		
場長	技師	菟田 芝芽男		
主任	技手	喜多山 昇來		
係員	技手	伊藤 善一		
同	助手	佐藤 善一		
同	漁撈手	內角 成雄		
同	兼助手	吉清 周太郎		
同	事業手	菅野 一男		
同	機關手			

算決算豫費經來以立創場本

水產試驗場費	科	大正五年度本場經常豫算	本年度豫算高		備	考	
			一二,六三一,〇〇〇	〇〇〇			
		同 四十四年度	豫算高	二,四四〇,〇〇〇	二,五七一,〇〇〇	九〇〇,〇〇〇	
		同 四十四年度	決算高	二,四三九,三三九	二,五八八,三二一	八七,八九〇	
		大正元年度	豫算高	二,五七四,〇〇〇	三,六二七,〇〇〇	九七,九三五	
		大正元年度	決算高	二,五九一,〇〇〇	三,四七四,〇九九	九七,六八五	
		大正二年度	豫算高	二,五七四,〇〇〇	五,四四六,〇〇〇	二二五,〇〇〇	
		大正二年度	決算高	二,五七四,〇〇〇	五,四四六,〇〇〇	二二五,〇〇〇	
		大正三年度	豫算高	二,五八六,〇〇〇	五,九一〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	
		大正三年度	決算高	二,五八六,〇〇〇	五,九一〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	
		大正四年度	豫算高	二,五八六,〇〇〇	五,八六一,八四四	四九,八一五	
		大正四年度	決算高	二,五八六,〇〇〇	五,八六一,八四四	四九,八一五	

算決算豫費經來以立創場本

		同 三十四年度	豫算高	一,三四〇,〇〇〇	二,三三七,七五〇	一,五五五,五〇八	
		同 三十四年度	決算高	一,二二五,五六二	二,〇八六,六六二	一,七九〇,一四八	
		同 三十五年度	豫算高	一,八〇〇,〇〇〇	三,七四〇,〇〇〇	二,四三三,六六三	
		同 三十五年度	決算高	一,七九六,四三六	三,二四〇,〇〇八	二,四八九,一〇三	
		同 三十六年度	豫算高	二,二六〇,〇〇〇	三,七六三,九〇〇	二,一七五,五〇〇	
		同 三十六年度	決算高	一,九八四,七三二	三,二八一,六六六	一,六六〇,七七一	
		同 三十七年度	豫算高	二,二六〇,〇〇〇	二,四四〇,〇〇〇	七,〇六八,三三〇	
		同 三十七年度	決算高	一,九三三,七八六	二,八二〇,七五四	五,〇〇三,三三一	
		同 三十八年度	豫算高	一,九四五,〇〇〇	一,七六九,三三〇	一,四〇四,三三九	
		同 三十八年度	決算高	一,六七二,五六六	一,六八五,〇〇六	一,三三三,三三三	
		同 三十九年度	豫算高	一,七八〇,〇〇〇	一,八四三,四八〇	一,四四一,一五〇	
		同 三十九年度	決算高	一,七三八,一六二	一,八三〇,三三五	一,三九七,一一一	
		同 四十年年度	豫算高	二,二六〇,〇〇〇	二,三三九,〇〇〇	一,五三九,〇〇〇	
		同 四十年年度	決算高	二,一七六,六三七	二,五〇五,〇六三	一,三七六,〇〇〇	
		同 四十一年年度	豫算高	二,三八〇,〇〇〇	三,〇五七,〇〇〇	九六九,〇〇〇	
		同 四十一年年度	決算高	二,三三三,九九六	三,〇三三,〇〇〇	九四四,九九〇	
		同 四十二年年度	豫算高	二,四四〇,〇〇〇	四,五三八,〇〇〇	八八四,〇〇〇	
		同 四十二年年度	決算高	二,〇七〇,五五五	四,三三三,七八〇	九三三,七〇〇	

リ故ニ本場試験ノ前提トシテ鱧ノ回游去來ノ狀況及ヒ魚道漁期等干係ノ事項ヲ實施調査シ三十四年度ニ於テ範ヲ福井縣鮪敷網ニ取リ本網ヲ新調シ之レヲ南秋田郡南磯村椿沿海ニ於テ使用試験シタリ爾來四ヶ年間試験ヲ繼續實施シタル結果男鹿半嶋沿岸ノ海況ニ適合シタル良漁具ナルヲ確メタルヲ以テ各村爭ウテ是レガ漁場ヲ探究シ南秋田郡双六、門前、芦ノ小浦、西黒澤ノ四ヶ所ニ本漁網ノ企漁者ヲ出シ當時何レモ豫想外ノ收益ヲ擧ゲタリ

一、鮪旋刺網漁業試験

鮪旋刺網試験ハ明治卅四年度ヨリ繼續シ三十六年度ニ至ル三ヶ年間由利郡ノ沿海ニ於テ試験ヲ施行シ其ノ間種々考案改良ノ結果漸ク其ノ目的ヲ達シ成績良好ニシテ同郡ニテ企業者ヲ見ルニ至リタルヲ以テ三十七年度ヨリ本網ノ試験地ヲ山本郡能代海面ニ移シ二ヶ年間試験ヲ繼續シ相當成績ノ見ルベキアリ爲メニ本郡ニテモ二三起業スルモノアルニ至リ而シテ同年度ニ於テ既ニ全縣ヲ通ジテ約十統ノ本網ヲ營ムモノアルニ至リ豫定ノ目的ニ添ヒタルヲ以テ三十八年度ニ於テ本試験ヲ結了シ專ラ獎勵普及ニ務メタルモ其後數年魚群ノ來游稀薄トナリ近時本網ヲ使用スル事少ナシ

一、鮫延繩漁業試験

本試験ハ夏秋ノ交ニ於テ來游スル方言わにト稱スルひらかしら、しゆもく、めじろノ如キ鱈類ヲ魚獲シ新業ヲ開發スルノ目的ヲ以テ三十八年度ヨリ試験ニ着手シ之レカ漁場調査ト鮫延繩試験ト關聯シテ施行シタリ而シテ本場試験ノ經過ニ徴スルトキハ本縣沿岸ニ來游スル鮫ハ其ノ洄游狀態餌料等ノ關係上到底營利的ノ漁業トナラザルヲ確認シ充分ノ成績ヲ改ムル事能ハズ四十二年度ヲ以テ試験ヲ結了シタリ

一、鰯巾着網試験

鰯巾着網ハ鰯ノ沖取漁具トシテ良好ナルモノニシテ明治二十九年即チ本場ノ創立セラレザル以前ニ於テ縣費ヲ以テ同網一統ヲ新調シ二ヶ年間漁業獎勵トシテ之レガ試験ヲ秋田水産會ニ委嘱シ三十年度ヨリハ更ニ山本郡實業會ニ轉囑試験ヲ實施シタリシモ實果ヲ見ル能ハザリシガ明治三十五年本場漁業試験トシテ之レヲ再興シ由利郡平澤ヲ根據地トシテ試験ヲ實施シ爾來數年間試験ヲ繼續シ鰯群ノミナラズ冬季鰯漁ニ試用シ多少ノ漁獲ヲナシタルモ巾着網ノ目的魚種タル脊黒鰯ノ來游年々稀薄ノタメ漁獲ノ好況ヲ見ル事能ハズ爾後本網ヲ由利郡平澤町當業者ニ貸與シ試験ヲ續行スル事トナシタリ故ニ鰯群ノ多數來遊ヲ見ルニ於テハ相當ノ漁獲成績ヲ擧グル事ヲ得ベケンカ

一、鰯揚網網試験

本試験モ亦前記ノ巾着網ト同一ノ目的ニヨリ明治卅五年度ヨリ二ヶ年間山本郡沿海ニ試ミ卅七年ヨリ

南秋田郡南磯村ヲ根據トシテ試驗ヲ開始シ三十八年ニ至ルニケ年繼續施行シタリシモ巾着網ト同ジク魚群稀薄ノタメ豫期ノ目的ヲ達スルノ機運ニ接セズ直營試驗ヲ移シテ之レヲ山本郡ノ當業者ニ囑託シタリ

一、劍先いか釣試驗

本試驗ハ本縣重要漁業タル鱈鮫延繩ノ餌料供給ノ目的ニヨリ明治三十六年度ヨリニケ年間試驗ヲ繼續施行シ漁場ヲ探見シ良好ノ成績ヲ擧ケ大ヒニ範ヲ示シけんざさいカノ釣漁業ヲ營ムモノアルニ至リタリ

一、鮪流網試驗

從來本縣沿岸ニ於テハ當時一般漁業者ハ鮪ノ河游アルヲ知ラズ從ツテ之レガ漁具漁法ノ行ハレザルハ勿論ナリシガ明治三十八年度ニ於テ本場鮫延繩試驗ニ關聯シテ鮪延繩試用ノ結果ハ初メテ本縣海洋ニ鮪ノ河游群來ノ事實ヲ探知シ得タリシヲ以テ卅九年度ヨリ大正二年度マテ鮪流網試驗ヲ施行シ之レカ成績顯著ナリシヨリ當業者ニシテ本流ヲ營ムモノ四十一年度ニ於テ既ニ三十餘雙四十三年度ニハ五十餘雙ノ出漁ヲ算スル盛況ヲ呈シ本縣水産統計上ニ鮪ノ漁獲ヲ見ルニ至リタリシカ爾後一方ニテハ定置漁業トシテ鮪大謀網ヲ營ムモノ續出シ其盛況ニ伴ヒ鮪ノ價格低下セルヲ以テ時ニ相當ノ漁獲ヲナスモ

尙往々收支相償ハサルモノアリ爲メニ現今ハ既往ノ如ク流網ノ盛況ヲ見ザルモ本縣ニ於テ年々拾余萬圓ノ鮪ノ漁獲ヲ統計スルニ至リ重要漁業ノ一ヲ加フルニ至リタルハ全ク本試驗ノ効果ニ外ナラザルナリ

一、鯉沖取網試驗

本試驗ハ巾着網及ヒ揚籠網等ニ比シ頗ル輕快ニシテ且ツ企業費巨額ヲ要セザルヲ以テ四十一年度ヨリ向フ四ケ年間之レヲ試驗シタリ當初ノ二ケ年間ハ經費ノ都合上水産會ヲシテ囑託試驗セシモ荒天其他ノ事項ニヨリ好果ヲ得ズ後二ケ年ハ本縣直營ナシタルモ魚群ノ來游絶無ニシテ遂ニ本試驗ヲ中止シタリ

一、鯉秋刀魚流網試驗

本試驗ハ四十三年度ノ創始ニシテ兩者ノ魚期同時期ナルヲ以テ之レガ並用試驗ヲ施行セシモ盛漁期ニ於ケル漁場ハ兩魚種ニ於テ甚タシキ相違アリ即チ鯉ニアリテハ沿岸一二哩以内秋刀魚ニアリテハ十哩余ナルノミナラズ其魚群ノ來游稀薄ニシテ到底營業トスルノ價值ナキヲ以テ四十五年度ニ於テ秋刀魚ノ漁獲ヲ目的トスル事ヲ中止シ爾來引續キ專心鯉流網試驗ヲ施行シ之レガ獎勵指導等ノ結果ハ重要ナル漁業トシテ發達シ縣下各漁村ヲ通シテ三百餘艘ノ出漁ヲ見ルニ至リタルヲ以テ大正四年度ヲ限リ本

試験ヲ完了シタリ

一、沖合漁業試験

大正元年度石油發動機付日本型漁船ヲ新造シ以テ周年ニ亘ル適種ノ各漁業試験ヲ施行シ營利經濟的成績ヲ究ントシ同年度ヨリ繼續シテ各種沖合漁業試験ヲ續行中ナリトス

一、鯖流網試験

本試験ハ大正元年度ニ於テ豫備試験ノ結果見ルベキモアリシヲ以テ翌二年度ヨリ是レガ本試験ヲ開始シタルノ結果ハ漁場漁期等ニ就キ略ホ之レヲ明カニスルコトヲ得夏期ニ於ケル將來極メテ有望ナル沖合漁業トシテ企業者既ニ廿隻ニ達セントスルモ本漁ハ鯉漁期ニ引續キ縣下一般通シテ重要漁業タラシメントシ普及ヲ圖ル目的ニヨリ試験ヲ繼續施行中ナリ

一、打瀬網試験

本試験ハ沖合漁業試験ノ一部ニシテ大正四年豫備試験ニ着手シ本年度ヨリ本試験ヲ開始シタリ目下試験中ニ囑シ是レガ成績未ダ斷シ難キモ數ヶ月ノ結果ヲ見ルニ操業輕易ニ相當ノ漁獲アルニ徴スレバ將來本縣適種漁業トシ發達スルノ機會ニ接スベケンカ

一、鯉鯖旋網試験

本縣ニ於ケル大羽鯉流網試験ハ良好結果民業旺盛ニ向ヒ大正五年全縣下沿岸出漁船數約三百余艘以上ニ達シタルモ鯉群ノ來游ハ益饒多ナルヲ以テ晝間沖合漁獲法ニシテ大正五年 期中途ヨリ急ニ網具ヲ調製シ豫備試験ニ着手シ數回大羽鯉ヲ圍繞漁獲シ引續キ來游ノ鯖鯉ニ應用試験シ其効果ヲ認メタルヲ以テ明年度ニ於テ本試験ヲ施行セントス

一、海洋觀測

明治四十三年度ヨリ開始ニシテ沿海重要ノ漁村ニ觀測人ヲ囑托シ天候、氣温、水温、比重等ノ觀測ト漁業關聯ノ事項ヲ調査報告セシメ漁業ノ基本資料タラシメントセリ

二、製造試驗

一、佃煮製造試驗

本縣八郎湖ニハ佃煮ノ原料タルハズ、及び、わかさぎ其他小魚類ノ漁獲豐富ナルモ未ダ之レヲ製造シ利用スル事ナキヲ以テ本場創立當時ノ年度ヨリ三十五年度ニ至ル三ヶ年間各種ノ佃煮ヲ試製售賣セシガ其販路廣ク需要頗ル多ク好望ノ事業タルヲ確メタルニヨリ一方傳習生ヲ養成シ斯業ノ開發ニ務メタルノ結果ハ民間ニ於テ佃煮製造業ヲ營ムモノ頗出シ爾來十數年ニ及ビ現時ニアリテハ南秋田郡大久保

村ノミニテモ十余戸ノ製造場ヲ見ルニ至リ年額製造高六萬五千余圓ニ達シ悉ク之レヲ縣外ニ輸出シ本縣重要ナル水産製品タルニ至リタルナリ

一、寒天製造試驗

本縣男鹿半嶋ニハ寒天ノ原藻産出シ寒天ノ需用ハ頗ル多ク年々多額ノ輸入アルヲ以テ本場ハ三十三年ヨリ四ヶ年間繼續試驗ヲ施行シ相當ノ成績ヲ見タルモ民業ノ起ルニ及バズシテ中止シタリ

一、罐詰製造試驗

化製利用ノ方法トシテ三十三年以家各種魚類果實等罐詰製造試驗ヲ施行シ三十五年度三十六年度ノ二ヶ年間繼續講習會ヲ開催シテ罐詰業普及ノ目的ニヨリ之レガ學理ト實地ノ傳習ヲナシタリ三十七八年ノ時局ニ際シテハ是等ノ傳習生ヲシテ軍用罐詰ノ製造ニ從ハシメ大々献買スル所アリタリ翌三十九年度ニ至リ事情ニヨリ製造試驗ノ全部ヲ中止スルノ余儀ナキニ至リシガ現時ニ於テ海面及湖面漁獲ノ實況ハ時勢ノ進運ニ伴ナヒ製造試驗ノ必要ナルニ至リタルヲ以テ大正二年度ヨリ年々ノ零碎ナル試驗ヲ施行シ大正四年度ハ白魚罐詰ヲ試製シ一方民業ヲ獎勵指導シタルノ結果大正五年ニ至リ白魚罐詰ハ海外輸出品トシテ産出ヲ見ルニ至リタリ

一、練蠶製試驗

明治三十七年度ニ於テ主務省特別補助金下附ニヨリ本試驗ヲ施行シ其製品ハ極メテ優良ナリシヲ以テ當時之レヲ聖路易萬國博覽會ニ出陳シテ好評ヲ博シ審査ノ結果銀牌ノ賞ヲ得タリ然レドモ爾後本縣練蠶ノ漁獲ナキヲ以テ本試驗繼續スル事能ハザルノミナラス有望ノ事業モ民間ニ普及スルニ至ラズシテ止ミタリ

三、養殖試驗

一、北寄介移殖試驗

本試驗ハ青森縣下ニ多産スル北寄介ヲ其ノ棲息場ト略々同一條件ヲ具備スル南秋田郡脇本濱ニ移殖シ之ガ繁殖ヲ圖ラント欲シ明治三十三年度ヨリ三十六年度ニ至ル四ヶ年ノ繼續事業トシテ總數四萬二千五百個ヲ移殖セルモ其ノ成績詳カナラザルヲ以テ爾後之ヲ中止セリ

一、鮭人工孵化試驗

本試驗ハ明治三十三年始メテ本場ニ於テ二十八年度ヨリ繼續施行シ來レル縣事業ノ後ヲ承ケ年々御物川畔花館孵化場ニ於テ孵化育養シ放流ヲ繼續シテ本年ニ及ベリ此ノ期間前後ヲ通ジテ十六ヶ年其ノ放流尾數約六百五十萬尾ニシテ之レガ成績ハ確實ナル統計ヲ欠クヲ以テ具體的ニ之ヲ明示シ難キモ各河

績成業事

年度別	採卵放流調		採卵數	放流數	摘	要
	雌	雄				
明治廿八年度	二五	一七	四二	四一・五〇〇	三三・二七一	雄物、藤琴、子吉、三川ニ放流ス
同廿九年度	九二	七三	一六三	二二五・三〇〇	四六二・二六〇	採卵以外ノ卵ハ千歳縣化場ヨリ購入ス
同卅年度	二二	七	一九	一四一・五〇〇	三三九・四六六	同 上
同卅一年度	一四七	一四〇	二八七	三〇〇・八〇〇	一六八・七五六	全部花箱ニ於テ採卵ノモノ
同卅二年度	二〇二	二〇八	四一〇	三六六・五〇〇	三三四・三九四	雄物、子吉、藤琴ノ三川ニ放流ス
同卅三年度	二二七	一九七	四二四	四三三・〇〇〇	四三三・一〇五	雄物、藤琴、二川ニ放流ス
同卅四年度	二八八	二二二	五二〇	二〇〇・一〇〇	一九七・八四	雄物川筋ニ放流ス

川ノ漁業入札價格ハ逐年増加ノ傾向ヲ示シ漁者又昔日ノ嘆聲ヲ聞カザルハ全ク鮭人工孵化放流ノ賜ヲラズンハアラザルナリ依而本事業ハ之ヲ繼續シ益々多數ノ鮭兒ヲ放流シ以テ河川永遠ノ流利ヲ圖ラントス

績成業事

同卅五年度	一四三	一七六	三二二	三二〇・三八〇	三〇三・六七〇	同 上
同卅六年度	二〇八	一九五	四〇三	四〇三・三五〇	三八九・九〇一	同 上
同四十一年度	一〇二	八九	一九〇	三三三・一〇〇	一一八・一五二	十九萬餘洪水ニテ斃死
同四十二年度	二九三	一九七	四八九	五二六・九〇〇	五〇二・四四二	雄物川ニ放流ス
同四十三年度	二二七	九三	二二九	六〇三・四〇〇	五七九・三二八	雄物川ニ放流セリ
同四十四年度	二六八	二七九	五四七	五二八・五〇〇	五二一・六九五	同 上
大正元年度	二二九	二四六	四七五	四七五・〇〇〇	四八八・八二五	同 上
同二年度	二四五	二六二	五〇七	五〇〇・〇〇〇	四八八・八二五	同 上
同三年度	四〇〇	五〇四	九〇四	六六六・六〇〇	四三七・八九四	同 上
同四年度	二六〇	一四一	四〇一	六六六・〇〇〇	六〇三・八一六	同 上
合計	三、三九六	三、二九	六、五三五	七、二八・七五六	六、七八・四九四	同 上

一、鮭人工孵化試験
(イ) 田澤湖

田澤湖ハ本縣第三位ノ湖水ニシテ湖ノ狀態鱒族ノ棲息ニ適シ鱒移殖ノ結果好成績ヲ收メタル十和田湖ニ髣髴タルモノアルヲ以テ三十五年度ヨリ鱒移殖ノ計畫ヲ企テ榎湖漁業組合ヲシテ湖岸ニ孵化場ヲ設置セシメ本場ハ之レガ監督ノ任ニ當リ組合ト協力シ大正二年度迄ニ鱒二百五十萬ノ孵化放流ヲ繼續シ來リタルガ基本的調査ヲ遂行シタル結果田澤湖ハ他湖水ト稍々其狀態ヲ異ニシ直チニ良好ナル成績ヲ擧ケ得ルコトノ困難ナルモ尙組合ト協力シ同湖啓開ニ關スル將來ノ方策ヲ樹テントシテ目下講究中ナリ

(口) 一ノ目 鴻

男鹿半嶋北浦町ナル一ノ目鴻ハ周圍約一里面積二十六町四反歩ノ小湖ナレドモ冷水性魚族ノ繁殖ニ適シ鱒ニ本場ノ指揮ニヨリ北浦町戸賀村共同經營ノ下ニ明治四十三年度及四十四年度ノ二ヶ年ニ亘リ鱒原卵ヲ十和田湖ニ仰キ孵化放養ノ上之レガ繁殖ヲ企テタルモ其後事情ニヨリ之レヲ中止スルノ餘儀ナキニ至リシガ大正三年秋期ニ至リ極メテ大ナル鱒魚群ノ游泳スルヲ認メ茲ニ放流ノ成績顯著ナルヲ認メタルヲ以テ北浦町ト協議ノ上同年再ビ湖岸ニ孵化場ヲ設置セシメ大正三年度ハ鱒原卵十五萬粒ヲ翌四年度ハ十七萬粒ヲ十和田湖和井内養魚場ヨリ購入シ之レガ孵化育養試驗ヲ北浦町ニ囑託シ以テ鱒養殖ノ經營法ヲ講究シ將來當業者ノ依ルベキ基準ヲ確立セントシテ試驗繼續中ナリ

大正五年八月施行シタル捕獲試驗ノ結果ニ徵スルニ明治四十四年放流ノモノハ平均体長一尺二寸二分体高四寸五分体量二百五十三匁ニ成長シ發育頗ル良好ナルヲ以テ今秋ハ再ビ捕獲ノ上採卵ノ豫定ナリ

一、米國産虹鱒移殖試驗

本試驗ハ米國産虹鱒ヲ移殖シ之レガ繁殖ヲ圖ラン目的ニテ大正二年五月該原卵五萬粒ヲ米國加州ヨリ輸入シ本場附屬八柳養魚場ニ於テ孵化育養シ約三萬五千尾ヲ本場溜養池魚試驗池空素沼ニ放養シ尙一部ハ池飼トナシ八柳養魚場ニ於テ育養中ナリ

空素沼放養ノモノハ未ダ捕獲セザルヲ以テ成績不明ナレドモ八柳養魚場池中飼育ノモノハ大正五年五月即滿三年ニシテ充分ニ精卵ノ成熟ヲ認ムルニ至リ親魚一尾ヨリ平均約七百粒ヲ採卵シ尙親魚ハ其儘生存發育ヲ遂ゲツ、アリテ成績佳良ナリ

虹鱒ハ頗ル強健ナルモノナレバ將來之レガ多數ノ増殖ヲ見縣内各所ノ適地ニ移殖スルトキハ必ズヤ鱒鱒以上ノ好成績ヲ收メ得ベケンカ

一、鱒兒移殖試驗

本試驗ハ明治二十九年ヨリ施行セル縣事業ノ後ヲ引繼ギ三十三年、三十四年ノ二ヶ年度本場ニ於テ鱒兒ヲ東京並宮城縣ヨリ購入シ八郎湖及ビ御物、子吉ノ兩川ニ移殖ヲナシ爾後一時事業中止セシカ明治

績成業事

年次	購入地	放養			合計	備考
		八郎湖	雄物川	子吉川		
明治二十九年	東京市	七〇・〇〇〇	七〇・〇〇〇	三〇・〇〇〇	一七〇・〇〇〇	
同三十年	同	七三・八〇〇	七〇・〇〇〇	三〇・〇〇〇	一七三・八〇〇	
同三十一年	同	七六・四〇〇	七〇・〇〇〇	三〇・〇〇〇	一七六・四〇〇	
同三十二年	同	八〇・〇〇〇	七〇・〇〇〇	五〇・〇〇〇	一八〇・〇〇〇	
同三十三年	同	六四・〇〇〇	五七・〇〇〇	三九・〇〇〇	一六〇・〇〇〇	
同三十四年	同	七三・五〇〇	七三・五〇〇	四九・〇〇〇	一九六・〇〇〇	

四十三年度ヨリ又タ鯉移植試験ヲ再興シ年々繼續シテ施行シタリ大正二年度ヨリハ専ラ溜池利用養殖魚種トシテ適地ヲ撰定シ夫々無償配布ヲ施行シ以テ斯業ノ普及ヲ企圖セリ而シテ配布箇所ノ成績ニ徴スレバ二三年經過シタル放養池ノモノハ四五十匁前後ニ成長シ相當漁獲シ得ラルルニ至リ其成績顯著ニシテ殊ニ八郎湖ノ如キハ漁獲法ノ普及セザルニ拘ハラズ年産額約五千貫價格四千餘圓ニ達スルニ至リタリ

績成業事

年次	宮城縣	放養			合計	備考
		八郎湖	雄物川	子吉川		
同四十三年	同	一三三・九〇	三三・〇〇〇	二七〇・〇〇〇	一八一・九〇〇	八郎湖分ハ南秋田郡費
同四十四年	同	一八・〇〇〇	三三・〇〇〇	二八・〇〇〇	一七九・〇〇〇	同
大正元年	同	一五三・〇〇〇	三五・〇〇〇	三〇・〇〇〇	一九〇・〇〇〇	同
同二年	同	一七三・〇〇〇	七三・〇〇〇	三三・〇〇〇	三三〇・〇〇〇	同
同三年	同	七〇・〇〇〇	七三・〇〇〇	三三・〇〇〇	一五三・〇〇〇	同
同四年	同	一五〇・〇〇〇	三三・〇〇〇	三三・〇〇〇	二六一・三〇〇	同
同五年	同	一六二・五〇〇	三三・〇〇〇	三三・〇〇〇	二八七・五〇〇	同
合計	同	一、三三二・五〇〇	五四・五〇〇	三三三・〇〇〇	二、五六八・五〇〇	上

一、養鯉試験

本試験ハ本縣内ニ夥多散在セル溜池其他ノ水域利用養殖魚種トシテ適地ニ鯉兒ヲ配布シ以テ養鯉業ノ普及ヲ企圖セン目的ニテ四十三年度ニ於テ二寸以上ノ鯉兒三萬尾ヲ購入シ之ヲ角助沼、浅内沼ノ二個

績成業事

年次	鯉兒無償配布調		摘
	配布尾數	配布箇所數	
明治四十三年度	二〇、〇〇〇	二ヶ所	營業者ヨリ購入配布セリ
大正三二年度	四、〇〇〇	七ヶ所	花館養魚場ニテ孵化育養セリ
同三二年度	三、〇〇〇	二ヶ所	八柳養魚場ニテ孵化育養セリ
同三三年度	四、〇〇〇	一五ヶ所	同

所ニ放養セリ然レトモ鯉兒ヲ購求シテ放養試驗スルノミニテハ到底全縣下ニ普及スルコトノ難キヲ想ヒ四十四年度ヨリハ親魚ヲ購入シ八柳養魚場ニ於テ鯉兒ヲ採卵孵化育養シテ配布ヲ繼續シ來リタリ然レトモ經費ノ關係上池積陝隘ニシテ多數ノ鯉兒ヲ配布シ能ハサルハ遺憾ノ極ナレトモ今ヤ養鯉業ハ副業トシテ各地ニ普及スルニ至リタルハ全ク鯉兒配布ノ効果ニ外ナラス縣内各地ヨリノ申請尾數ハ年々増加ノ傾向ヲ示シ來レルヲ以テ大正五年ヨリハ鯉兒配付規程ヲ制定シ有償配付トシタルモ配付可能尾數十萬ニ對シ申請尾數約二十六萬ノ多數ニ及ビ到底全部ノ需要ニ應ジ能ハサル状態ナリ明治年四十三年以降ノ配付尾數左ノ如シ

績成業事

同四年度	計	同
九、〇〇〇	二六ヶ所	同
二四、〇〇〇	六八ヶ所	同

一、溜池利用養魚試驗
本試驗ハ溜池ヲ生産的ニ利用シテ其ノ收支ノ途ヲ明カニシ營業者ノ據ルベキ模範ヲラシメテ以テ本場附近ノ空素沼ヲ撰ミテ養魚試驗地トナシ大正元年秋季ヨリ本年度ニ繼續シ鯉兒約一萬四千尾虹鱒約三萬五千尾ヲ放養シ之ヲ半周期的ニ經營シツ、アリ虹鱒ハ未ダ年ヲ重子ザルヲ以テ捕獲セザルモ鯉兒ハ既ニ滿三年ヲ經過セルモノアルヲ以テ大正四年之ガ捕獲ヲナシ體長一尺内外體量約百匁ニ成長セルモノ約四百尾ヲ得タリ尙試驗ヲ繼續中ナリ

一、公魚人工孵化豫備試驗
本縣八郎湖生産中主位ヲ占ムル公魚ハ近年著シク産額減少ノ傾向アル故ニ積極的ニ人工孵化放流ニ出テ目的ヲ立テ大正二年度ヨリ同三年ニ亘リ人工孵化豫備試驗ヲ施行シ成績良好ナリシモ意外ニ多額ノ經費ヲ要セシヲ以テカ、ル多大ノ支出ヲナシテ人工孵化放流ヲ行フヨリハ却テ消極的ノ繁殖保護ニ努ムルコトノ有利ナルニ想到シ遂ニ中止スルニ至レリ

續成業事

一、八郎湖水面利用調査

本調査ハ八郎湖利用ノ目的ヲ以テ左記要項ニ基キ大正二年度末ヨリ大正四年度ニ亘リ調査ヲ施行シ本湖經營基本ノ資料ヲ得タリ

調査要項

一、理化學的調査

- 沿岸ノ地勢
- 深淺及廣袤
- 底質
- 水位
- 水温
- 比重
- 凍結狀態
- 氣象
- 有毒物流入ノ有無

續成業事

二、生物學的調査

- 各生物ノ種類分布及習性
- 各生物ノ産卵場及産卵期
- 各生物ノ孵化狀態及稚魚ノ移動
- 各生物ノ生長度及食餌被害
- 浮游生物ノ種類多寡

三、漁業調査

- 各魚種ノ漁具ノ種類沿革漁期漁場
- 各町村漁具ノ種類數量漁獲高
- 各町村漁船數
- 免許許可漁業件數
- 各種漁具ノ構造使用法
- 各町村漁業ト農業ノ干係
- 漁獲物處理法

干 係 法 規

一、産業試験費講習費國庫補助法

(明治三十九年三月
法律第九號)

第一條 本法ニ於テ試験場ト稱スルハ農事工業及水産ニ關スル試験場講習所ニシテ主務大臣ノ定メタル規程ニ依リ設立シタルモノヲ謂フ

第二條 本法ニ依リテ交付スル補助金ニ充ヅル爲國庫ハ毎年金貳拾萬圓以內ヲ支出ス

第三條 主務大臣ハ府縣ニ於テ設立シ又ハ北海道地方費ヲ以テ設立シタル試験場又ハ講習所ニ對シ補助金ヲ交付スルコトヲ得

主務大臣ハ補助金ノ用途ヲ指定スルコトヲ得

第四條 補助金ノ交付ハ五箇年ヲ以テ一期トス但シ用途ヲ指定スル場合ハ此限ニ在ラス
前項ノ期間滿了ノ後仍必要アルトキハ補助金ヲ繼續スルコトヲ得

第五條 補助金ノ年額ハ試験場又ハ講習所經費總額ノ二分ノ一以內トス

第六條 主務大臣ハ都市區立ノ試験又ハ講習所ニシテ成績顯著ナルモノニ對シ特種ノ試験ニ要スル材料機械又ハ裝置ノ費用ヲ補助スルコトヲ得但シ其ノ府縣ニ於テ設立シ又ハ北海道地方費ヲ以テ設立シタ

ル試験場又ハ講習所ニシテ同種ノ試験ヲ行フモノアルトキハ此ノ限ニ在ラス
 前項ノ補助金ノ額ハ材料機械又ハ装置ニ要スル費用ノ二分ノ一以内トス
 第七條 試験場又ハ講習所ニシテ其管理不適當ナリト認めタルトキ補助年期間其經費ヲ繼續支出セザル
 トキ又ハ主務大臣ノ定メタル規程若ハ補助ノ條件ニ違反シタルトキハ主務大臣ハ補助ヲ廢止シ停止シ
 又ハ其ノ額ヲ減スルコトヲ得
 第八條 主務大臣ハ工業ニ關スル實驗工場ニ囑託シ第二條ニ定ムル金額内ニ於テ其ノ費用ヲ支給スル
 コトヲ得

附 則

第九條 本法ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

府縣農事試験場國庫補助法ハ之ヲ廢止ス

第十條 試験場國庫補助法ニ依リ補助ヲ受クルモノハ其補助年期間本法ニ依リ補助ヲ受クルモノトス

二、府縣水産試験場規程

(明治三十二年八月一日) 改正 (明治四十年五月)
 (農商務省令第二十二號) (省令第十號)

第一條 本規程ニ於テ府縣水産試験場ト稱スルハ府縣ノ費用ヲ以テ設立スル水産試験場ヲ謂フ

第二條 府縣水産試験場ハ一府縣ニ一箇所ヲ限リ設立スルコトヲ得但分場ヲ設クコトヲ妨ケス

第三條 府縣水産試験場ハ其府縣内ノ水産業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トシ魚撈、製造、養殖等ニ關
 スル事項ニ付キ試験ヲ行フモノトス

府縣水産試験場ハ毎年一回以上ノ成績ニ關スル報告書ヲ發行スルコトヲ要ス

第四條 府縣水産試験場ハ左ノ業務ヲ行フコトヲ得

一、巡回講話

二、魚兒、介苗等ノ配付

三、水産製品其他ノ分折及鑑定

四、水族ノ蕃殖及漁場等ニ關スル調査

第五條 府縣水産試験場ノ農商務大臣ノ指定シタル事項ニ付試験又ハ調査ヲ爲スコトヲ要ス

第六條 府縣水産試験場ハ試験ノ成績ニ付ニ當業者ニ傳習ヲ爲シ又ハ漁獵、航海ニ關スル技術ノ練習ヲ
 爲サシムルコトヲ得(四十年五月改正)

第七條 府縣水産試験場ヲ設立セントスルトキハ地方長官ハ左ノ事項ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クル
 コトヲ要ス分場ヲ設ケントスルトキ同亦シ

- 一、名稱及位置
- 二、業務ノ項目
- 三、試験用地ノ種類及ヒ其面積
- 四、建物ノ種類及ヒ其坪數
- 五、職員ノ職名、其員數及ヒ俸給額
- 六、收支豫算書
- 七、第六條ニ依リ傳習又ハ練習ヲ爲スモノニ在リテハ之ニ關スル規程(四十年五月追加)
- 第八條 府縣水産試験場ノ收支豫算書ハ每會計年度前三十日ヲ限リ地方長官ヨリ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス但國庫ノ補助ヲ受クル府縣水産試験場ニ付テハ此限ニ在ラス
- 前條第一號乃至第五號ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ地方長官ハ毎年三月三十一日ニ於テ現存スル事項ヲ翌月中ニ農商務大臣ニ届出ルコトヲ要ス
- 第九條 府縣水産試験場毎年度ノ業務功程ハ地方長官ヨリ翌年度五月限リ之ヲ農商務大臣ニ報告スルコトヲ要ス
- 府縣水産試験場ノ試験成績報告書ハ之ヲ發行スル毎ニ地方長官ヨリ之ヲ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス

- 第十條 府縣水産試験場又ハ其分場ヲ廢止セントスルトキハ地方長官ハ其事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
- 附 則
- 第十一條 本規程ハ明治三十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
 - 第十二條 本規程施行前ニ設立シタル府縣立水産試験場ニ付テハ地方長官ハ明治三十二年十月三十一日マテニ第七條ニ掲ケタル事項ヲ届出ルコトヲ要ス
- 三、秋田縣水産試験場處務規程**
(明治三十九年四月十四日
秋田縣訓令第九十五號改正)
- 第一章 業 務
- 第一條 本場ハ水産業ノ改良進歩ヲ圖ルヲ以テ目的トシ左ノ業務ヲ掌ル
 - 一、水産ニ關スル試験及調査
 - 二、水産ニ關スル講習及講話
 - 三、水産ニ關スル質疑應答
 - 四、其他水産上必要ナル事項

- 第二條 場長ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ全般ノ事務ヲ處理シ所屬ノ職員ヲ監督シ場務ノ整理ニ付其責ニ任ス
- 第三條 技師ハ場長ノ指揮ヲ承ケ場務ヲ分掌ス
- 第四條 技手ハ場長及技師ノ指揮ヲ承ケ場務ニ從事ス
- 第五條 書記ハ場長及技師ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス
- 第六條 場長ハ職員ノ進退賞罰ニ關シ其意見ヲ知事ニ具申スルコトヲ得
- 第七條 場長事故アルトキハ首席職員其事務ヲ代理ス
- 第八條 場長ハ左記ノ事項ニ就キ知事ノ許可ヲ得テ之ヲ處理ス
 - 一、各種調査試験ノ施行方法
 - 二、場員ノ管外出張並ニ節省除服ノ件
 - 三、生産物並ニ不用物品處分ノ件
 - 四、其他主要ト認ムル事項
- 第九條 場長ハ左記事項ニ付キ之ヲ專行シ毎月十日迄ニ事由ヲ知事ニ報告スヘシ
 - 一、職員ノ管内出張
 - 二、事業手以下小使ノ命免

- 第十條 本場業務功程ハ毎年一回試験及調査ノ成績ハ毎年二回又ハ臨時調査ヲ編纂シ知事ニ報告スヘシ
- 第二章 服 務
- 第十一條 場員出場シタルトキハ直ニ出勤簿ニ捺印スヘシ
- 第十二條 疾病其他ノ事故アリテ出勤セザルトキハ執務時間前場長ニ届出ツヘシ
- 第十三條 前條疾病ニ依リ不參一週間ヲ過ケル時ハ毎週醫師ノ診斷書ヲ添へ療養ノ届出ヲナスヘシ
- 第十四條 擔任ノ職務ニ就テハ充分其責ニ任シ從令擔任外ノ事務ト離モ相幫助シテ場務ノ上進ヲ期スヘシ
- 第十五條 場員服務時間ハ開令ノ定ムル所ニ依ルト雖モ試験事業繁忙又ハ場務ノ都合ニ依リ特ニ場長ノ指揮アルトキハ休日又ハ定時限外ト雖モ出場服務スヘシ
- 第十六條 本場近火又ハ非常ノ事變アルトキハ災害自己ニ迫ル場合ヲ除クノ外場員ハ速ニ出場防禦スヘシ
- 第十七條 場員ハ輪番ヲ以テ常直ヲナスヘシ其時限ハ退場時間ヨリ出場時間迄トス
- 第十八條 常直員ハ本場設備ノ日誌ニ退場時間後ニ生シタル總テノ事項ヲ記載シ且ツ場内ノ取締ニ注意シ重要至急ニ涉ルノ事件アルトキハ直ニ之ヲ場長ニ申告シ指揮ヲ承ケ處理スヘシ

規 法 係 干

第三章 事務分掌

第十九條 本場ニ左ノ各係ヲ置キ場員ヲシテ其事務ヲ分擔セシム

一、魚撈係

一、製造係

一、養殖係

一、廳務會計係

第二十條 各係ニ於ケル執務ノ事項左ノ如シ

第一項 漁撈係

一、漁撈ニ屬スル調査及試験ノ事項

二、漁撈ニ屬スル質疑應答

三、漁撈ニ屬スル器具ノ管理

四、漁撈ニ屬スル講習及講話ノ事項

五、漁撈ニ屬スル成績調製ノ事項

六、漁撈ニ屬スル經費豫算編製ノ事項

第二項 製造係

一、製造ニ屬スル調査及試験ノ事項

二、製造ニ屬スル質疑應答

三、製造ニ屬スル器具ノ管理

四、製造ニ屬スル講習及講話ノ事項

五、製造ニ屬スル成績書調製ノ事項

六、製造ニ屬スル經費豫算編製ノ事項

七、試製品ノ試賣ニ關スル事項

八、販路調査ニ關スル事項

第三項 養殖係

一、養殖ニ屬スル調査及試験ノ事項

二、養殖ニ屬スル質疑應答

三、養殖ニ屬スル器具ノ管理

四、養殖ニ屬スル講習及講話ノ事項

規 法 係 干

- 五、養殖ニ屬スル成蹟書調製ノ事項
 - 六、養殖ニ屬スル經費豫算編成ノ事項
 - 七、標本品調製ニ關スル事項
- 第四項 庶務會計係
- 一、場印場長印及其他ノ諸印ヲ保管スル事
 - 二、場員ノ服務ニ關スル事
 - 三、文書ノ起案及審査ニ關スル事
 - 四、文書ノ記録及保存ニ關スル事
 - 五、文書ノ接受及發送ニ關スル事
 - 六、諸帳簿ノ調製整理及保存ニ關スル事
 - 七、諸般ノ儀式ニ關スル事
 - 八、諸般ノ報告ニ關スル事
 - 九、場内ノ警備及取締ニ關スル事
 - 十、場内日誌記録ノ事

- 十一、經費出納ニ關スル事
 - 十二、會計ニ關スル諸帳簿整理ノ事
 - 十三、本場經費豫算調製ニ關スル事項
 - 十四、物品購入及不用品處分ニ關スル事項
 - 十五、土地建物ノ管理及修繕ニ關スル事項
 - 十六、他ノ主管ニ屬セザル事項
- 第四章 文書取扱
- 第廿一條 本場ニ收受シタル文書(親展書ヲ除ク)ハ要項ヲ件名簿ニ登載シ收受月日番號ヲ附シ場長ノ檢閱ヲ經テ主任者ニ交付スヘシ
 - 第廿二條 主任者ニ於テ收受文書ノ交付ヲ受ケタルトキハ直ニ審査處分スヘシ
 - 第廿三條 本場ヨリ發送スヘキ文書ハ凡チ之ヲ稟議シ場長ノ決裁ヲ受クヘシ
 - 第廿四條 場名若クハ場長名ヲ以テ發送スヘキ文書ハ庶務係ニ於テ淨書照合シ件名簿ニ其ノ件名番號及發送年月日ヲ登記シ其番號ヲ記入シ捺印ノ上發送シ原議ヲ簿冊ニ綴リ込ムヘシ
 - 第廿五條 發送文書ニハ通例場名ヲ用ヒ事ノ重大ナル場合ニハ場長名ヲ用ユヘシ

第廿六條 小使ヲ以テ送達セシムル文書ニハ送付簿ヲ用ヒ必ズ受印ヲ徴シ置クヘシ

第廿七條 處分完結ノ文書ハ總テ庶務會計係ニ於テ之ヲ分類編綴シ其保存年限ハ本縣庶務細則ノ例ニ依ル

第廿八條 令達其他場員ノ知悉ヲ要スヘキ書類ハ總テ同覽ニ附シタル后當該簿ニ綴リ込ムヘシ

第廿九條 文書綴込簿冊ハ部類ヲ分チ總テ曆年ヲ以テ之ヲ編成ス但會計ニ關スル書類ハ會計年度ニ依リ編製スヘシ

第三十條 本場設備ノ簿冊左ノ如シ
庶務會計係ノ保管ニ屬スルモノ

一、試驗原簿

二、日誌

三、試驗成績簿

四、件名簿

五、來觀人名簿

六、臨時人夫雇入簿

七、出勤簿

八、職員名簿

九、職員履歷書綴

十、質疑應答錄

十一、參考書類綴

十二、出張復命書綴

十三、例規類纂

十四、出張伺簿

十五、職員願屆綴

十六、辭令原簿

十七、決議錄

十八、令達綴

十九、秘書綴

二十、當直日誌

廿一、縣會計規則ニ關スル諸帳簿
第卅一條 前條規定外ニシテ臨時必要ノ簿書ハ場長ノ指揮ヲ受ケ調製スヘシ

四、秋田縣水產試驗場鯉兒配布規程 (大正五年六月二日 秋田縣告示第百七十六號)

- 第一條 秋田縣水產試驗場ニ於テ採卵育養シタル鯉兒ハ本規程ニ依リ之ヲ配付ス
- 第二條 配付ノ鯉兒ハ体長約一寸ノモノニシテ價格ハ一尾二厘以内ニ於テ水產試驗場長之レヲ定ム
- 第三條 鯉兒ノ配付ヲ受ケルモノハ左記各號ノ一ニ該當スルモノニ限ル
 - 一、養魚上相當ノ設備ヲ有シ養殖ヲ爲ス團體及個人
 - 一、湖沼溜池等ヲ利用シテ養殖ヲ爲ス團體及個人
 - 一、水產試驗場長ニ於テ必要ト認メタルモノ
- 第四條 鯉兒ノ配布ヲ受ケントスルモノハ毎年四月末日迄ニ左記様式ニヨリ願書ヲ水產試驗場長ニ差出スベシ
- 第五條 前條出願ニ對シ許可シタルトキハ同時ニ配付尾數配付期日及場所ヲ出願者ニ通知スベシ
- 第六條 前條ノ通知ヲ受ケタルモノハ代金ヲ水產試驗場ニ納付ノ上前條ノ通知書及代金受領證ヲ提示シ

鯉兒ノ配付ヲ受クベシ

第七條 鯉兒ノ配付ヲ受ケタルモノハ十日以内ニ左記事項ヲ水產試驗場長ニ報告スベシ

- 一、鯉兒運搬中ノ狀況
- 二、斃魚數
- 三、放養年月日及尾數

第八條 鯉兒放養後水質ノ變化其ノ他ノ原因ニ依リ著シキ被害アリト認ムルトキハ直チニ其狀況ヲ水產試驗場長ニ報告スベシ

第九條 配付ヲ受ケタル鯉魚ハ一尺以上ニ至ラザレバ捕獲スルコトヲ得ズ

(様式)

一、申請尾數 二、放養場所地名 何郡何町村何番地(別紙略圖添付)	鯉兒配付願 何尾
--	-----------------

- 三、公私有ノ別
- 四、水面積
- 五、水深
 - 平均何尺、冬期何尺、夏期何尺
- 六、池底ノ土質並藻類發生ノ多寡
- 七、冬期結氷並水面狀況
- 八、棲息セル魚類ノ種類
- 九、天然餌料ノ有無
 - 小蝦虫類其他發生ノ多寡
 - 從來養魚ノ有無
- 十、從兒配付規程ヲ遵守シ養魚致度候條御配付相成度候也

年 月 日

住 所

五、産業講習規程

(明治四十三年六月二十一日) 秋田縣告示第百九十五號

第一條 産業講習會ハ普通農業、蠶業、畜産業、林業、水産業、工業、産業組合、耕地整理ノ學理、技術、事務ニ關シ教授スルモノトス

第二條 産業講習ノ科目ハ左ノ如シ

- 一、普通農業
 - 栽培、氣象、土壤、肥料、農具、病理、昆虫、製造、貯藏、牛馬耕、法制、經濟、實習
- 二、蠶業
 - 氣象、飼育法、蠶体生理、蠶体病理、蠶体解剖、蠶病豫防、製糸法、桑樹栽培法、法制、經濟、實習
- 三、畜産業
 - 生理、解剖、外貌、飼養、管理、蕃殖、酪業、牧草、牧場、治療、衛生、法制、經濟、實習

秋田縣水産試験場長氏名殿

氏

名 附

- 四、林 業
 - 森林通論、造林、森林保護、森林利用、森林經理、測量、森林法規、實習
- 五、水 産 業
 - 漁撈、製造、養植、遠洋漁業、氣象、法制、經濟、實習
- 六、工 業
 - 金屬製品、染織物、漆髹、木竹製品、編物、其他手工藝
- 七、産業組合
 - 法制、組合ノ運用、組合ノ經營
- 八、耕地整理
 - 關係法規、測量、設計、土壤及土木改良、維持、管理
- 第三條 産業講習會ヲ開設シ縣ヨリ講師ノ派遣ヲ請ハントスルモノハ左ノ事項ヲ具シ開會三十日前ニ所轄郡市長ヲ經テ知事ニ申請スヘシ但郡市ノ開設スル場合及一郡市以上ニ涉ル團體ニ於テ開設スル場合ハ其開設者ヨリ直接申請スヘシ
- 一、講習會規則

- 二、講習希望ノ科目
- 三、講習會場ノ位置
- 四、講習生ノ人員
- 第四條 講習會ニ要スル經費ハ開設者ノ支辨トス但講習ニ要スル器具及原料ハ縣ニ於テ之ヲ貸與シ又ハ交付スルコトアルヘシ
- 第五條 講習ヲ修了シ試問ニ合格シタルモノニハ第二號様式ノ修得證書ヲ授與ス
- 會期ノ三分ノ二以上講習ヲ得タルモノニハ時宜ニ依リ修得證書ヲ授與スルコトアルベシ
- 第六條 講習修了後十日以内ニ第一號様式ノ報告書ヲ提出スベシ
- 附 則
- 第七條 明治三十三年四月秋田縣告示第百二十五號馬耕傳習規程明治三十五年六月秋田縣告示第百八十八號水産試驗場傳習規程及明治三十八年九月秋田縣告示第百二十一號秋田縣農事試驗場短期農事講習規程ハ本規程施行ノ日ヨリ廢止ス

(第一號様式)

會 主 何々(學科、技術)講習會報告
 區 域
 開會場所
 會 期
 講習時間
 講習科目
 修得人員(人員ノ住所氏名年齢及職業別ヲ別紙ニ認メ添付スルコト)
 聽講人員

(第二號書式)

一 科 目 修 得 証 何 々

住 所

右産業講習會規程ニ依リ前場ノ科目ヲ修了シタルコトヲ証ス
 年 月 日 知事位勳 氏 名 團

六、鮭魚採卵場同人工淨化場名稱位置

(明治卅三年十二月十八日 秋田縣告示第三百六十六號)

明治三十二年十二月本縣告示第三百二十六號鮭魚採卵場同人工淨化場名稱並位置左ノ通改正ス

名	稱	位	置
秋田縣水產試驗場花館鮭魚採卵場		仙北郡花館村	
秋田縣水產試驗場花館鮭魚人工淨化場		同郡同村	

七、田澤湖鱒人工淨化場設置

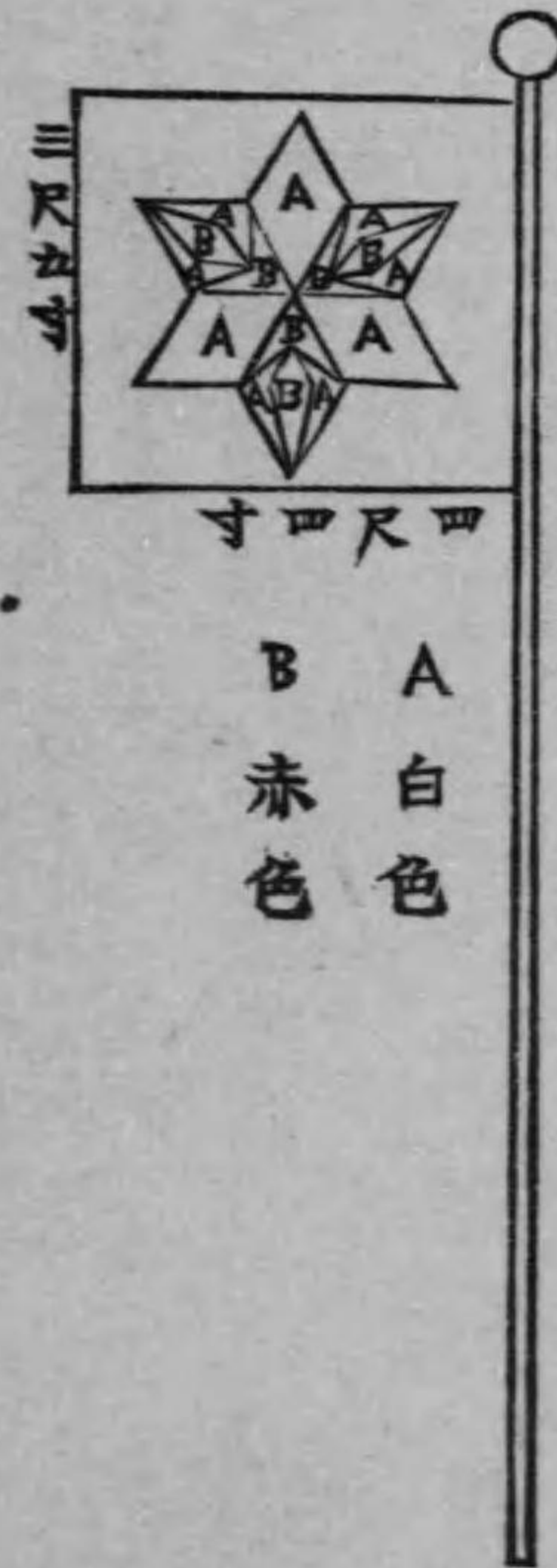
(明治卅六年一月十三日 秋田縣告示第十二號)

秋田縣水產試驗場田澤湖鱒人工淨化場ヲ仙北郡西明寺村西明寺字湯尻ニ設置ス

八、本場標旗制定

(明治卅六年九月十一日
秋田縣告示第二百八十二號)

秋田縣水産試驗場標旗左ノ通り相定ム



九、本場移轉

(明治卅九年四月十二日
秋田縣告示第三百三十號)

本年四月一日秋田縣水産試驗場ヲ南秋田郡土崎港町相築新田字大濱ニ移轉セリ

一〇、空素沼養魚場設置ノ件

(明治四十五年七月十二日
秋田縣告示第二百十號)

秋田縣水産試驗場養魚場ヲ南秋田郡寺内村空素沼ニ設置ス

一一、空素沼禁魚場

(明治四十五年七月十二日
秋田縣令第六十號)

南秋田郡寺内村空素沼ニ於テ魚類ノ捕獲ヲ禁止ス
前項ニ違背シタルモノハ科料ニ處ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一二、本縣漁業取締規則

(大正元年十二月廿七日
秋田縣令第廿五號改正)

第一條 左ニ掲グル漁業ヲナサムトスルモノハ一種類毎ニ知事ノ許可ヲ受クベシ但シ專用漁業ノ免許ニ
依ル漁業者又ハ入漁者ガ其ノ漁場ニ於テ免許ヲ受ケタル漁業ヲ爲ス場合ニ之ヲ適用セズ
一、鮭流網漁業

- 二、鮭刺網漁業
 - 三、手繰網漁業
 - 四、打瀬網漁業
 - 五、居繩網漁業
 - 六、氷下曳網漁業
 - 七、特別漁業ニ該當セザル地曳網漁業及船曳網漁業
 - 八、定置漁業ニ該當セザル建網漁業及瓢網漁業
 - 九、四ツ手網漁業
 - 十、八ツ目笠漁業
 - 十一、八ツ目空掛漁業
 - 十二、採藻漁業
- 前項ノ漁業ヲ許可シタル時ハ鑑札ヲ下附ス
- 第二條 漁業法施行規則第五十條及前條ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
- 一、漁業ノ名稱

- 二、漁場
 - 三、漁獲物ノ種類
 - 四、漁業時期
 - 五、許可期間
- 前項ノ願書ニハ漁場略圖、漁船數、漁具ノ使用方法ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ
- 二人以上共同シテ許可ヲ受ケムトスルトキハ内一人ノ代表者ヲ選定シ連署ノ上出願スベシ
- 第三條 漁業登録令ニ依ル申請ヲ除ク外漁業ニ關スル出願申請及届書ハ漁場管轄地ノ町村長及郡市長ヲ經由シ知事ニ提出スベシ
- 漁場ノ管轄ニ以上ノ郡市ニ亘ルトキ若ハ其ノ管轄不明ナルトキハ住所地ノ町村長及郡市長ヲ經由シ知事ニ提出スベシ
- 他府縣ニ住所ヲ有スルモノニシテ前項ノ場合ハ直チニ知事ニ提出スベシ
- 第四條 漁業ニ關シ農商務大臣ニ提出スベキ願書申請書及届書ニシテ知事ヲ經由スルモノハ別ニ副本一通ヲ添附スベシ
- 第五條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者漁業ヲナストキハ鑑札ヲ携帯スベシ

前項及漁業法施行規則第五十條ニ依ル鑑札ノ再下附又ハ書換申請中其ノ漁業ヲナサムトスル者ハ市町村長ノ証明書ヲ携帶スヘシ

第六條 漁業法施行規則第五十條及本則第一條ノ漁業ヲ廢業シタルトキ又ハ鑑札ノ効力消滅シタルトキハ三十日以内ニ亡失ノ場合ヲ除ク外鑑札ヲ添附シテ知事ニ届出ツヘシ

許可ヲ受ケタル漁業者死亡シタルトキハ戸籍法ニ依ル義務者ヨリ前項ノ期限内ニ其ノ手續ヲナスヘシ
第七條 許可ヲ受ケタル漁場又ハ漁業時期ヲ變更セムトスルトキハ鑑札並ニ漁場略圖ヲ添へ變更ノ許可ヲ知事ニ願出スヘシ

漁船數、漁具ノ構造、漁具ノ使用方法ヲ變更セムトスルトキハ豫メ知事ニ届出ツヘシ
第八條 鑑札ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ其事由ヲ具シ再下附ヲ知事ニ申請スヘシ

住所氏名ニ變更ヲ生シタルトハ町村長ノ証明書又ハ戸籍抄本ヲ添付シ三十日以内ニ鑑札ノ訂正ヲ知事ニ申請スヘシ

第九條 許可期間更新ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ期間満了ノ日ヨリ少クモ二ヶ月前ニ鑑札ヲ添付シ知事ニ申請スヘシ
前項ノ場合ニ於テハ許可ノ處分ヲ受ケル迄仍舊漁業ヲナスコトヲ得

第十條 鑑札ハ相續、讓渡又ハ貸付スルコトヲ得ス

第十一條 許可漁業ノ期間ハ十ヶ年以内トス但第十二條第一項ニ依リ漁業ヲ停止シタル期間ハ許可期間ニ算入セズ

第十二條 左ノ場合ニ於テハ許可シタル漁業ヲ制限シ停止シ又ハ許可ヲ取消シコトアルヘシ

一、水産動物ノ蕃殖保護其他公益上必要アリト認ムルトキ

一、本則又ハ漁業ニ關スル他ノ法令ニ違背シタルトキ

一、許可ニ附帶シタル條件又ハ制限ニ違背シタルトキ

第十三條 湖河魚類ノ通路ヲ遮斷シテ漁業ヲ爲ストキハ平水流幅三分ノ一以上ノ魚道ヲ開通スヘシ

第十四條 左ニ掲グル水産動物ハ之ヲ採捕シ又ハ販賣スルコトヲ禁ス但シ風波ノ爲メ海岸ニ打揚ケラレタル鱒卵ハ此ノ限ニ在ラス

一、體長三寸以下ノ鮑

二、體長五寸以下ノ鮭、鱒及鱒

三、體長七寸以下ノ鰻

四、體長二寸以下ノ鱒

五、鮭鱒及鱒ノ放産セシ卵

第十五條 左ニ掲ケル水産動物ハ左ノ期節内ニ於テ之ヲ捕採シ又ハ販賣スルコトヲ禁ス

一、鮑 八月一日ヨリ十月三十一日マテ

二、鮎 三月一日ヨリ六月三十日マテ

三、八郎湖ニ於ケル鰻 四月一日ヨリ六月三十日マテ

第十六條 八郎湖ニ於テ毎年三月一日ヨリ六月三十日迄藻類ノ採取ヲ禁ス

第十七條 八郎湖ニ於テ四月一日ヨリ八月三十一日マテ藤曳網及打瀬網ヲ以テ漁業ヲナスコトヲ禁ス

第十八條 用水堰ニ工作物ヲ施シテ漁業ヲ爲シ又ハ流水ヲ堰止メ瀬干業ヲ爲スコトヲ禁ス

第十九條 八郎湖ニ於テ左ニ掲ケル漁具ヲ使用シテ漁業ヲ爲スコトヲ禁ス

漏斗間手網

跳込網

機械網

罟目四分以下ノ「モツバ」(又ハモツバカ)又ハ之ニ類スル定置漁業
於 桑

罟目五寸三十節以上ノ瓢網

第二十條 御物川、子吉川、米代川及八郎湖ニ於テ現ニ免許シタルモノヲ除キ左ニ定メタル區域ニ限リ

定置漁業ヲ免許セズ

一、御物川 仙北平鹿兩郡界ヨリ下流河口マテ

一、子吉川 由利郡矢嶋町ト同郡西瀬澤村トノ境ヨリ下流河口マテ

一、米代川 山本北秋田兩郡界ヨリ下流河口マテ

一、八郎湖 一 圓

第二十一條 鮪大謀網漁業ハ現ニ免許シタルモノヲ除キ左ノ距離ヲ存スルニアサレバ之ヲ免許セス但シ

地形其他特別ノ事由ニヨリ免許ヲ與ヘタル漁業ニ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニアラス

一、免許ヲ與ヘタル大謀網漁場トノ距離千五百間

第二十二條 前二條ノ場所於テ免許ヲ受ケタル漁業者ガ漁業權存續期間更新ノ免許ヲ申請シタルトキハ

漁業法施行規則第十七條第一項ノ場合ヲ除ク外之ヲ免許ス

第二十三條 八龍橋ヨリ上流五十間下流海面ニ至ル區域ニ於テ年四月十日ヨリ六月十日マテ漁業ヲ爲ス

コトヲ禁ス但現ニ免許セル張切網ハ此ノ限ニアラス

第二十四條 左ニ掲グル場所ニ於テ毎年十月十日ヨリ十二月十五日マテ網具ヲ以テ漁業ヲナシ及鮭鱒ヲ捕獲スルコトヲ禁ス

一、御物川

甲 南秋田郡土崎港町相染新田波止場北端標木ヨリ河邊郡新屋町百三段新屋宇砂奴寄瀨ノ内五箇瀨ノ下標木ニ至ル線ヨリ下流河口マテ

乙 河口中央ヲ中心トシ海面二百間ノ距離ニ圓形ヲ畫ケル區域

一、御物川

河邊郡岩見川落合標木ヨリ下流五百間

一、子吉川

甲、由利郡本莊町由利橋標木ヨリ下流河口マテ

乙、河口中央ヲ中心トシ海面二百間ノ距離ニ圓形ヲ畫ケル區域

一、子吉川

由利郡西瀧澤村吉澤橋標木ヨリ下流同郡鮎川村南福田標木及對岸同郡小友村萬願寺標木見通線ニ至ル迄

一、石澤川

由利郡石澤村大築標木ヨリ下流子吉川落合ニ至ル迄

一、岩見川

河邊郡三内川落合標木ヨリ下流御物川落合ニ至ル迄

第二十五條 定置漁業及特別漁業ノ保護區域ヲ定ムルコト左ノ如シ但シ本則發布前免許ヲ得タルモノニシテ各漁場ノ距離接近シ左ノ各號ノ間數ニ滿タザルモノアルトキハ其ノ間隔間數ヲ以テ甲乙漁業ノ保護區域トス

一、臺網類漁業中鮎大謀網漁業ニアリテハ垣網ノ前面五百間身網ノ周圍二百間角網(建網ヲ含ム)及行成網ニアリテハ垣網ノ前面百間身網ノ周圍五十間

前項ノ漁具ニシテ双口ナルトキハ其ノ保護區域ハ垣網ノ左右ニ涉ルモノトス

一、落網類漁業中瓢網漁業ニアリテハ垣網ノ左右各五十間及身網ノ周圍三十間

一、張網類漁業中白魚間手網漁業ニアリテハ網口ヨリ上流三百五十間

一、臥築類漁業中網臥(毛繩)漁業ニアリテハ漁場ノ左右各百間簀建持網ニアリテハ其下流三十間「モツバ」(又ハモツバカ)ニアリテハ漁場ノ左右各五十間築漁業ニアリテハ漁場ヨリ上流百間下流三十

問

一、特別漁業第三種漁業ニアリテハ漁場ノ前面左右各百間第八種漁業ニアリテハ漁場ノ周圍百間
 第二十六條 前條保護區域内ニ於テハ現ニ漁業ニ從事中魚類ノ通路ヲ遮斷シ又ハ音響火光其他魚類ヲ威嚇散逸セシムヘキ行為若シクハ其ノ免許漁業ト同種ノ漁獲物ヲ目的トスル他ノ漁業ヲ爲スコトヲ得ス
 第二十七條 漁業者ニ非ザルモノハ漁ノ漁具又ハ漁法ニ依ルノ外水産動物ヲ採捕スルコトヲ得ス

一、投網

一、又手網

一、櫛網

一、竿釣

第二十八條 養殖學術研究其他特別ノ事由ニヨリ本則ニ於テ制限禁止シタル水産動物ヲ採捕セムトスルモノ若ハ制限禁止シタル漁具又ハ漁法ヲ以テ水産動物ヲ採捕セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル書照ヲ知事ニ提出シ其ノ許可ヲ受クヘシ

一、採捕ノ目的

一、採捕スヘキ水産動物ノ種類名稱

一、採捕ノ場所
 一、採捕ノ期時
 一、採捕ノ方法

第二十九條 定置漁業區別漁業特別漁業ノ免許ヲ受ケタル漁業者ハ免許ノ日ヨリ三十日以内ニ漁場ノ標識ヲ建設シ知事ニ届出ツヘシ

第三十條 漁場ノ標識ハ四寸以上高五尺以上ノ石材又ハ木材ヲ用ヒ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一、漁業ノ種類及名稱

一、漁場ノ位置

一、漁業權者ノ氏名又ハ名稱

一、免許年月日

前項ノ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキハ二十日以内ニ之ヲ訂正スヘシ

第三十一條 漁業權消滅シタルトキハ十五日以内ニ標識ヲ撤去シ知事ニ届出ヘシ

第三十二條 第一條ノ許可ヲ受ケスシテ漁業ヲナシタルモノ又ハ第七條第十四條乃至第十九條第二十三條第二十四號第二十六條ニ違背シタルモノハ五拾圓以下ノ罰金ニ處シ漁具及漁獲物ヲ沒收ス但シ漁具

及漁獲物ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價格ヲ追徴ス
第三十三條 第十條ノ規定ニ違背シタルモノハ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス
第三十四條 第五條第六條第一項第八條第二項第二十九條乃至第三十一條ノ規定ニ違背シタルモノハ五圓以下ノ科料ニ處ス

附 則

第三十五條 本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第三十六條 従前ノ規定ニヨリ漁業鑑札ヲ受ケ本則第一條ニ該當スル漁業ヲ爲スモノハ本則ニ依リ鑑札ヲ得タルモノト見做ス但許可期間ハ許可ヲ受ケタル日ヨリ計算ス
第三十七條 本則ニ依リ許可ヲ受ケルヲ要セザル漁業ニシテ従前ノ規定ニ依リ漁業鑑札ヲ有マルモノハ其ノ鑑札ヲ添付シ郡市役所ニ届出職漁鑑札ヲ受ケヘシ
第三十八條 明治四十二年二月十二日秋田縣令第八號秋田縣漁業取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

一三、職漁取扱規程 (明治廿六年八月一日) (秋田縣令第五十四號)

第一條 定置漁業區劃特別漁業及許可ヲ受ケヘキ漁業以外ノ漁業ヲ爲サムトスルモノハ左記ノ事項ヲ記載シタル届書ヲ所轄郡市長ニ差出シ職漁鑑札ヲ受ケヘシ

一、漁業ノ名稱

二、漁業ノ場所

三、漁獲物ノ種類

四、漁業ノ時期

前項ノ外必要アリト認ムルトキハ漁具ノ構造及使用方法書ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第二條 鑑札ハ漁業者漁業ヲナストキハ之ヲ携帯スヘシ

第三條 第一條ノ漁業者廢業シタルトキハ直ニ鑑札ヲ添付シ郡市長ニ届出ツヘシ

前項ノ漁業者死亡ノ場合ニアリテハ關係者ヨリ其手續ヲナスヘシ

第四條 鑑札ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ郡市長ヘ申請スヘシ

第五條 鑑札ハ相續讓渡質入又ハ貸付スルコトヲ得ズ

第六條 第一條第三條第五條ノ規定ニ違背シタルモノハ科料ニ處ス

附 則

第七條 本則ハ明治卅六年八月十五日ヨリ施行ス

一四、職漁取扱規程施行手續 (明治卅八年八月十五日 秋田縣訓令乙第一九六號)

- 第一條 職漁取扱規程第一條(區別漁業ニ該當セザル養殖業ヲ包含ス)ニ依ル漁業ヲ届出ツル者アルトキハ郡市長ハ利害ヲ調査シ差支ナキモノト認ムルトキハ別記雛形ニ依リ職漁鑑札ヲ下付スヘシ
- 但シ利害ノ判明セザルトキハ狀ヲ具シ知事ノ指揮ヲ請フヘシ
- 第二條 届出漁場ノ區域二郡以上ニ渉ルトキハ其ノ届書ヲ受ケタル郡市長ヨリ關係郡市長ニ協議ノ上鑑札ヲ下付スヘシ
- 第三條 職漁鑑札ハ左ノ區別ニ從ヒ下付スヘシ但シ鑑札ハ調製ノ上配付ス
 - 一、網漁一種毎ニ鑑札一枚
 - 二、養殖業ハ一區域毎ニ鑑札一枚
 - 三、釣漁延繩(罾延繩ヲ除ク)採介(鮑ヲ除ク)猪突一人毎ニ鑑札一枚
- 第四條 漁業鑑札ニハ番號下附ノ年月日漁業ノ名稱漁業ノ場所漁獲物ノ種類漁業ノ時期漁業者ノ住所氏名ヲ記載シ郡市役所ノ烙印ヲ捺捺スヘシ

但シ一定ノ漁場又ハ期節ナキモノハ之ヲ記載スルヲ要セズ

第五條 郡市長職漁鑑札臺帳ヲ備置キ鑑札面ト同一ナル事項ヲ登錄シ毎年三月末日限リ漁業種類ヲ區別シ其ノ統計ヲ知事ニ差出スヘシ

鑑札雛形

第 表		第 裏	
寸	寸	面	裏
○	○	○	○
漁業ノ名稱	職漁札鑑	漁獲物ノ種類	漁業ノ時期
漁業ノ場所	住所	年月日	郡市役所名
住所	氏名		烙印
三寸	三寸		

一五、漁業法施行規則及同取締規則第三條ノ鑑札取扱手續

(明治三十六年三月三日 秋田縣訓令甲第十號)

漁業法施行規則及漁業取締規則第一條ノ鑑札取扱手續左ノ通り定ム

- 一、漁業許可又ハ鑑札再下付若クハ鑑札書換ノ指令書郡役所ニ到達シタルトキハ郡役所ニ於テハ式ニ依リ鑑札ヲ調整シ出願者ニ之ヲ下付スヘシ但シ鑑札番號ハ指令書ノ番號ヲ用ユヘシ
- 二、漁業許可ノ鑑札ハ左ノ區別ニ從ヒ下付スヘシ
- 網漁業ハ一種類毎ニ鑑札一枚其他ノ漁業ハ一人毎ニ鑑札一枚
- 三、漁業取締規則第七條ニ依リ鑑札書換ヲ出願シタルモノアルトキハ郡市役所ニ於テ鑑札ヲ留メ置キ其願書ノミヲ經由進達スヘシ
- 四、漁業取締規則第六條ニ依リ廢業届出ノモアリタルトキハ郡市役所ニ於テ鑑札ヲ廢棄シ其届書ノミヲ經由進達スヘシ
- 五、郡市役所ニ於テハ鑑札臺帳ヲ備ヘ置キ鑑札ニ記載セル事項ヲ登録スヘシ

一六、漁業法施行規則第五十六條ニ該當スル漁業

(明治三十五年十一月十二日 秋田縣告示第四百五十三號)

空釣繩漁業

カラツリ カラバリ

一七、漁業法施行規則及漁業取締規則ニ依ル漁業鑑札雛形

(明治卅六年三月三日 秋田縣告示第七十一號)

木製 第三號 漁業場所 漁獲物 漁業鑑札

面 表 寸三巾

漁業時期 許可期限 郡市村(町)字 氏名

長サ 四寸五分

裏 面

年月日

秋田縣 烙印

一八、訓令甲第十號鑑札取扱手續及告示第七十一號漁業鑑札

(明治卅六年三月十日 秋發第四十八號通牒)

訓令甲第十號鑑札取扱手續

- 一 第一項鑑札番號ハ指令書ノ番號ヲ用フヘシトアルハ頭書ノ符合(秋田縣指令甲)ヲ除キ單ニ第何號ト記載セラルヘキ趣意ナリトス。
 - 二 第二項第一號網漁業ハ一種類毎ニ云々トアルハ例令ハ一願書ニ數名連署スルモ其種類毎ニ鑑札一枚ヲ附與セラルヘキ趣意ナリトス若シ此場合ニ於テ鑑札面ニ出願者ノ氏名ヲ悉ク記載シカタキトキハ何ノ誰外何名ト記入セラルヘシ
 - 三 第二項第二號其他ノ漁業ハ一人毎ニ云々トアルハ例令ハ一願書ニ數名連署スルモ其出願者各自ニ鑑札一枚ツ、附與セラルヘキ趣意ナリトス
 - 四 鑑札臺帳ハ別紙ニ準據シ調製セラレタシ
- 一九、告示第七十一號漁業鑑札**
- 一、鑑札面中「何々漁業」トアルハ所謂漁業ノ名稱ニシテ即チ鍊刺網罟延繩ハツ目筒ト云フノ類ナリトス
 - 二、鑑札ハ現品ニテ當廳ヨリ配付ス

二〇、免許漁業願、申請書式及登録申請書式

(大正元年十二月廿七日)
(秋田縣告示第三百三十一號)

明治四十四年三月十八日農商務省告示第七十九號(漁業法施行規則ニ依リ行政官廳ニ差出スベキ)及同年三月二十三日農商務省告示第八十九號(漁業登録令ニ依ル)願書申請書及届書ノ様式)及同請書及届書ノ書式左ノ通定ム

明治三十五年秋田縣告示第四百五十二號ハ之ヲ廢止ス

(第一號書式)

漁業ノ名稱
漁場
漁獲物ノ種類
漁業時期
許可期間

前記ノ通漁業許可相受度別紙漁場略圖及關係書類相添此段相願候也

年 月 日

住 所 番 地

氏 名

知 事 宛

(第二號書式)

漁業許可變更願

一、(鰯場)

一、(漁業時期)

前記ノ通變更ノ許可相受度鑑札(並別紙漁場略圖關係書類)相添此段相願候也

年 月 日 住 氏 所 名

知 事 宛 氏 所 名

注 意

一 出願者漁業組合員ナルトキハ其ノ漁業組合理事ノ連署アルコトヲ要ス

二 共同出願ノ場合ノ記名ハ左ノ例ニ依ルベシ

住 所 氏 名

住 所 氏 名

右代表者 氏 名

(第三號書式)

漁業鑑札再下付(訂正)申請書

一、何年何月何日許可第何號

前記鑑札亡失(毀損)(氏名變更)(住所變更)候ニ付再下付(訂正)相成度(毀損鑑札相添此毀申請候也)

年 月 日 住 氏 所 名

知 事 宛 (代表者) 氏 所 名

注 意

一 亡失ノ場合ニハ其初末ヲ詳記シタル書面ヲ添付スベシ

(第四號書式)

何漁業許可期間更新申請書

何年何月何日許可第何號

一 更新期間 何箇年

前記ノ通更新ノ許可相受度鑑札相添此毀申請候也

年 月 日
住 氏 所 名 印

注 意

(第五號書式)

漁業鑑札返納届

- 一、何年何月何日許可第何號
前記漁業何年何月何日廢業(又ハ許可消滅)候ニ付鑑札返納候也

知 事 宛
住 氏 所 名 印

注 意

- 一 共同許可ヲ受ケタルモノ廢業ノ場合ハ其記名ハ書式第一號注意ニ依ルベシ

(第六號書式)

定置(區劃)(特別)漁業漁場標識建設届

- 一 何年何月何日免許第何號
何年何月何日前記漁場標識建設候ニ付此段及御届候也

住 氏 所 名 印
(代表者)

(第七號書式)

免許漁業原簿閱覽(謄本又ハ抄本下附)申請
收入印紙何程貼付

- 一 何年何月何日免許第何號定置(區劃)(特別)漁業全部(何部分)(漁場圖)
右閱覽御許可(謄本又ハ抄本下付)相成度此段申請候也
- 年 月 日
住 氏 所 名 印

知 事 宛

(第八號書式)

漁業ニ關スル爭議裁決申請書
收入印紙五圓貼付

申請ノ目的
何々ト裁決相成度候
理由
何々ニ付何々ニ有之候
立證
何々ニ付テハ第何號證何々ニ付テハ第何號ヲ以テ立證仕候
年 月 日
知事宛
申請者 氏 名
住 所 氏 名
住 所 氏 名
相手方 氏 名

(第九號書式)

申請書副本 何通
證據書類 何通
但第何號ヨリ第何號ニ至ル 何々
以上何通

何漁組合聯合會設立許可申請書
今般自分共委員トナリ漁業法第四十四號ニ依リ何漁業組合聯合會設立ノ爲メ
何年何月何日創立委員會ヲ開キ茲ニ法定ノ手續ヲ了シ候條聯合會設立御許可
相成度別紙規約初年度經費豫算及分賦收入方法其他何々決議録謄本相添此段
申請候也

何郡何漁業組合
理事 氏 名
同 理事 氏 名
何郡何漁業組合員 名

年 月 日
知 事 宛
氏 名

注 意

(第十號書式)

一 聯合會ニ加入シタル各組合委員全部記名捺印スルヲ要ス

經費ノ分賦收入方法認可申請書

何漁業組合(漁業組合聯合會)大正何年度經費分賦收入方法別紙ノ通何年何月何日總會ニ於テ決議致候條御認可相成度決議錄本相添此段申請候也

何那何漁業組合(何漁業組合聯合會)

理事 氏 名

年 月 日
知 事 宛

一 漁業組合ノ經費分賦收入方法ノ認可ハ大正四年九月訓令第三十一號ヲ以テ改正シ郡長ノ認可ヲ得ルコトナレリ

(第十一號書式)

定款(規約)變更認可申請書
何年何月何日何水産組合(漁業組合)(漁業組合聯合會)ニ於テ定款(規約)變更ノ決議致候條御認可相成度別紙變更定款(規約)決議錄ノ謄本相添此段申請候也
何水産組合(何漁業組合何漁業組合聯合會)
理事 氏 名

年 月 日
知 事 宛

統 計

(五年度現在)

一、漁業組合表

郡名	組合名稱	組合地區	設立年月日	組合員數	組長名	事業概要
小砂川	漁業組合	上濱村小砂川	明治四十四年十一月二日	六	土門 忠藏	遭難救恤

計 統

さいわし	まぐろ	はた	ぼら	た	か	さ	ま	ま
二、六〇五	二、九三〇	八、八八〇	一、五〇〇	一、五九〇	三、九二〇	一七、五〇六	二五、一四五	七五、四七〇
しらうな	ふか	さめ	あかぬひ	あふご	いせぬび	たらぬび	まだこ	
三、五七〇	二、四〇〇	二、四七〇	三、〇〇〇	二、六〇〇	一	八、七〇〇		
	ひらかしら、しゆもく、かとうさめ、うばさめ、ねこさめ	のこぎりさめ、つのさめ、ほしさめ、あぶらさめ						

計 統

三、海面漁獲統計表				探	あ	か	ほ	点
た	あ	す	名	草	わ	に	う	び
ひ	ら	き	稱		び	刺	手	手
三、八九〇	一三、五三〇	三五	漁獲金高			網	繰	繰
			摘					
			要					
しいら	いな	あ	名					
	ち	ち	稱					
			漁獲金高					
四、五六八	二〇〇	一	摘					
			要					

(大正二年本場調査)

計 統

あなご	しらうな		あかぶ		まいはし				
	延繩	計	刺網	待網	空釣	計	揚網	地曳網	流網
一六	一	一五	三〇	一〇	一	一	一五〇	一八四	一八四
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二、六四〇	三、五七〇	一、七七〇	一、八〇〇	三三〇	三五〇	七五、四七〇	二〇〇	二四、二〇〇	五〇、九〇〇
ばい		きす		たこ		いか			
計	刺網	計	地曳網	計	壺	計	建網	釣	計
一	一	一	三	一	二九	一	三〇	二五〇	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二、一三〇	二、一三〇	八、八八〇	八、八八〇	一、一六五	一、一六五	六、五〇〇	三、六〇〇	二、九〇〇	二、六四〇

計 統

たらさめ	いしなぎ	ぼら		はたはた					
		計	手釣	計	抄手	地曳網	手繰網	刺網	
一二五	一	三	一	一	一八	六	四	一六	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	
三六、九八〇	四、五〇〇	四、五〇〇	二、五〇〇	一、一五〇	二、三、三三〇	〇、九〇〇	八、九〇〇	一、〇八〇	七、八〇〇
ます		さけ		いなだ					
計	地曳網	刺網	建網	計	地曳網	建網	計	旋刺網	計
一	一七	一九	九	一	一	七	一	二	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二五、一四五	五、二五〇	九、二五	一八、九七〇	一七、五六〇	二、二五〇	一七、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	三六、九八〇

計 統

郡 本 山		郡 本 山		郡 村	漁業種類	統計	平均	均高	均高
村	館 岩	村	館 岩						
たい延縄	まぐる流網	いわし流網	ます刺網	はたげた起網	大謀網	1	5,000	5,000	5,000
3	8	8	4	5	1				
80	1	250	100	50					
240	1	2,000	400	2,250					
郡 本 山		郡 本 山		郡 村	漁業種類	統計	平均	均高	均高
村		村		館 岩	あらし手釣	3	110	110	1,400
はたげた起網		雑延縄		かれい延縄	4		100	100	50
23		7		4					
6		25		100					
19,000		1,750		1,400					

五、海面各村漁種別漁獲表

(大正二年本場調査)

累

計

1

1

55,065

計 統

ま び		か れ い		た な ご		さ め	
計	手繰網	計	手繰網	計	延縄	計	刺網
1	6	1	29	1	4	1	7
1	1	1	1	1	1	1	1
8,700	8,700	3,920	3,520	4,000	3,000	3,840	2,400
雑流		かき		あわび		かに	
計	計	採集	計	採	計	刺網	計
1	130	1	1	1	1	6	1
1	1	1	1	1	1	1	1
8,920	8,920	400	400	2,000	2,000	2,000	4,000

計

郡 本 山									
村	内	浅	村	柳	町	港	代	能	村
た	ます	いわし	計	計	計	ます	ます	さげ	計
こ	地曳網	地曳網	いわし	計	計	地曳網	地曳網	地曳網	
壺			地曳網						
六	七	七	一	一	一	一	一	一	一
五〇	七〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一	二五〇	二五〇	二五〇	一
三〇〇	四、九〇〇	一、七〇〇	一〇〇	一〇〇	三、〇〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	一、五八〇
郡 本 山									
村 口 濱							村内浅		
さ	ます	あ	い	ま	た	ま	い	計	雑
め	地曳網	か	わし	す	ひ	す	わし	計	網
刺		点	流	刺	地	地	地		
網		空	網	網	曳	曳	曳		
五	五	五	一〇	一〇	一	六	二〇	一	二
二〇	一三〇	二〇	三〇〇	五〇	六〇〇	一〇〇	二五〇	一	五〇〇
一〇〇	六〇〇	一〇〇	三、〇〇〇	五〇〇	六〇〇	六〇〇	一、五〇〇	七、七〇〇	一、〇〇〇

計 統

郡 本 山									
村	森						八		
た	さ	雑	ま	沖	ま	い	は	は	は
い	め	網	す	手	ぐ	わし	た	た	た
延	延		刺	線	ろ	流	は	は	は
繩	繩		網	網	流	網	た	た	た
八	八	六	五	六	一	二	四	八	六
七〇	五〇	一五〇	五	三〇	一	三〇〇	一〇〇	五	四〇
五六〇	九〇〇	二、七五〇	二五	七六〇	一	七、五〇〇	四、〇〇〇	六〇	一、〇〇〇
郡 本 山									
雲	東	村 目 澤			村 森 八				
ま	い	さ	計	ま	ま	い	計	い	す
ぐ	わ	す		す	す	わ		わ	す
ろ	し	地		建	地	し		し	き
流	流	曳		網	曳	地		地	竿
網	網	網			網	曳		曳	釣
一	二	二	一	八	二	二	一	一	五
二〇〇	二五〇	八〇	一	三〇〇	四〇〇	二五〇	一	七五〇	五
二〇〇	五〇〇	八〇〇	二、〇〇〇	二、四〇〇	四、四〇〇	四、三〇〇	三、七、〇〇〇	七、五〇〇	二五

計 統

郡 田 秋 南		村 賀 戸	
村 賀 戸	町	浦	北
さげ建網	大謀網	計	いなし巻刺網
七	三	一	七
二〇〇	一、九〇〇	一	二五〇
七〇〇	五、七〇〇	一〇、二九〇〇	二〇〇
郡 田 秋 南		村 賀 戸	
計	あわび採	いしか釣	ます建網
一	一	二〇〇	一〇
一	一	一〇	五〇
一八、六五〇	二〇〇	二、二〇〇	五〇〇

計 統

郡 田 秋 南		村 西 湯	
村 合 里 五	村	西	湯
いわし地曳網	ます建網	さげ建網	いわし揚操網
一〇	七	七	一
一	七	八	二〇〇
一	四九〇	五〇〇	二〇〇
郡 田 秋 南		村 中 鹿 男	
町 浦 北	村 中 鹿 男	村 合 里 五	地 曳 網 (カクツナ)
はたはた風網	ます建網	さげ建網	いなし流網
一六	二六	二六	一
七〇	一〇〇	一五〇	二〇〇
二、二〇〇	二、八〇〇	四、二〇〇	三、二〇〇

計 統

郡		田		秋		南	
飯嶋	新城	村	王	天	町	越	船
はたはた地曳網		計	しらうな刺網	さめ刺網	はたはた地曳網	計	しらうな持網
二	一	一	四	三	一五	三	三
五〇	一	一	三〇	三〇	五〇	一〇〇	五〇
一〇〇	一	二、三〇〇	一、四〇〇	二、〇〇〇	七〇〇	三、七〇〇	一、八〇〇
郡		田		秋		南	
河	新	崎	土	飯	嶋		
町	屋	計	まくろ流網	沖手繰網	いわし地曳網	計	いわし地曳網
八	二	一	二	四	五	一	三
一五〇	二五〇	一	一〇〇	二〇〇	一〇〇	一	五〇
一、二〇〇	五〇〇	六、六〇〇	二、三〇〇	八、〇〇〇	五〇〇	二、六〇〇	一、五〇〇

計 統

郡		田		秋		南	
村	磯	南	船	川	港	脇	本
大謀網	ます建網	はたはた瓢網	いか建網	はたはた建網	いわし流網	沖手繰網	計
三	六	三	三	三	四	三	一
三〇、〇〇〇	一八〇	九〇	三〇〇	三〇〇	九、六〇〇	三、〇〇〇	一、八〇〇
三〇、〇〇〇	一、〇八〇	三〇、七〇〇	三、六〇〇	三、〇〇〇	九、六〇〇	三、〇〇〇	一、八〇〇
郡		田		秋		南	
村	本	脇	川	船	磯	南	
計	はたはた建網	計	はたはた建網	はたはた瓢網	計	すすき曳網	あら手釣
一	五	一	三	二	一	二	六
一	一〇〇	一	三〇〇	五〇	一	二〇	二〇〇
五、八五〇	五〇〇	四〇、九五〇	一、〇五〇	三九、九〇〇	八三、五八〇	二、八〇〇	一、二〇〇

計 統

郡 利 由									
町 莊 本		村 崎 ケ 松							
ま す 建 網	さ げ 建 網	計	た こ 壺	し い ら 濱	た ら 、 さ め 延 繩	い わ し 流 網	沖 手 繰 網	ま す 建 網	さ げ 建 網
一	一	一	五	二	二	四	七	五	五
一	一	一	五	八	一〇	一	一	七〇〇	三〇〇
一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、二五〇	二五	九六	一、九八〇	九〇〇	一、六三三	三、五〇〇	三、一五〇

郡 利 由									
村 目 西		町 莊 本							
手 繰 網	い わ し 地 曳 網	ま す 建 網	さ げ 建 網	計	い わ し 流 網	い わ し 地 曳 網	た こ 壺	た い 延 繩	た ら 、 さ め 延 繩
六	六	一	一	一	二	三	三	四	一〇
六〇	五〇	一〇〇	一〇〇	一	三〇	六〇	三〇	一	二〇〇
五、四〇〇	三〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	五、七〇〇	七〇〇	一八〇	九〇	七〇〇	二、二〇〇

計 統

郡 利 由				郡 邊 河					
村 濱 下		村 田 濱		町 新 屋					
あ か ま 空 釣	い わ し 流 網	は た は た 地 曳 網	い わ し 地 曳 網	計	は た は た 地 曳 網	い わ し 流 網	沖 手 繰 網	い わ し 地 曳 網	計
五	二	二〇	二〇	一	二五	五	三	二五	一
五〇	三〇	六〇	二〇	一	五〇	二八〇	一〇〇	一	一
二五〇	二六〇	一、八〇〇	二、二〇〇	六、五〇〇	七五〇	一、四〇〇	三、四〇〇	一、〇〇〇	八、三〇〇

郡 利 由									
村 川 道				村 濱 下					
計	は た は た 地 曳 網	い わ し 流 網	た こ 壺	沖 手 繰 網	さ げ 建 網	ま す 建 網	い わ し 地 曳 網	計	た こ 壺
一	一六	一	五	四	一	一	二〇	一	五
一	二五〇	一	八〇	一五〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	一	二〇
九、五〇〇	四、〇〇〇	一〇〇	四〇〇	六〇〇	二〇〇	二〇〇	四、〇〇〇	四、六一〇	一〇〇

計 統

郡 利 由									
町 浦 金					町 澤 平				
さば流網	まぐろ流網	いわし流網	手繰網	はたはた瓢網	ます建網	さげ建網	計	雑魚突採	ばい釣
六	三	六	五	四	一	一	一	七	三
八〇	一〇〇	一八〇	一〇〇	二五	一	一	一	一	四
四八〇	三〇〇	一、〇八〇	五〇〇	一〇〇	一、〇〇〇	五〇〇	四、七〇〇	一七〇	三〇〇
郡 利 由									
町 浦 金					町 澤 平				
計	さめ小延繩	はたはた刺網	あはび採	しいら漬	いか釣	さげ手釣	あなご延繩	だい延繩	たら、さめ延繩
一	七	四	一	二	三	五	八	六	二
一	四〇〇	三〇	一	二五〇	二〇	五	三〇	五〇	一、〇〇〇
二、一五〇	二、八〇〇	一、一〇	八〇〇	五〇〇	六〇〇	二	一、〇〇〇	三〇〇	二、〇〇〇

計 統

郡 利 由									
町 澤 平					村 目 西				
さげ建網	大謀網	かに刺網	まぐろ流網	いわし流網	計	雑魚突捕	さげ延繩	たい延繩	いわし流網
一	一	六	三	三	一	三	三	四	二
一	一	四〇	一	四〇〇	一	一〇	三〇	一〇〇	四〇
一、五〇〇	三、七〇〇	二、四〇〇	二、〇〇〇	三、六〇〇	九、九二〇	二二〇	九〇〇	四〇〇	八〇〇
郡 利 由									
町 澤 平					村 目 西				
はたはた刺網	たご壺	しいら漬	さげ流網	たい延繩	たら、さめ延繩	沖手繰網	いわし地曳網	はたはた建網	ます建網
三	五	二	四	二	一	八	二	三	一
三三〇	五〇	一五〇	三〇〇	三〇	三五〇	一〇〇	三〇〇	五〇	一
六、六〇〇	二、四〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	三、六〇〇	五、三五〇	八、〇〇〇	六〇〇	二、二五〇	五、五〇〇

郡		利		由				
町		漁		象				
たひ延縄	あなこ延縄	さめ延縄	たら、さめ延縄	まぐる流網	いわし流網	はだばた建網	ます建網	さけ建網
五	八	五	二	一	四	一五	一	一
三〇	三〇	一〇〇	六〇〇	一	三〇〇	八〇〇	七〇〇	八〇〇
二五〇	二四〇	一、六〇〇	五〇〇	二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	七〇〇	八〇〇
山本郡		郡		利		由		
村		濱		上		町漁象		
計	かき採集	たひ延網	手繰網	げら建網	さけ建網	ます建網	計	いか釣
一	一	一	一五	一	四	四	一	二〇
一	一	二五〇	一	一	四〇〇	三〇〇	一	一五
八、七〇〇	四〇〇	一、二〇〇	四、一〇〇	一五〇	一、六〇〇	一、二〇〇	一三、五〇〇	三〇〇
八、四、六三〇								

南秋田郡		河邊郡	
二七、三九〇	由利郡	一四、八五〇	河邊郡
二七、〇九〇	計	五〇、〇四〇	計

郡名	海岸線	町村数	部落数	郡名	海岸線	町村数	部落数
由利郡	十六里二十七町十一間	九	二九	山本郡	十一里十九町四十間	八	二六
河邊郡	四里十町五間	二	二	計	五十六里十五町六間	三二	九七
南秋田郡	二十三里三十町十間	一三	四〇				

郡	町村名	部落		海岸線延長		全町村		専業		兼業		漁専兼業計		全町村漁業ト、比	
		数	里	町	間	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口
山	岩館村	二	二	一四	〇	一七五	一、一〇五	六	三三	六五〇	一三三	九五五	〇六九	〇八六	

計 統

郡邊河	郡 田 秋 南									
	計	土崎港町	飯島村	下新城村	天王村	船越町	脇本村	船川港町	南磯村	
計	二	四〇	二	一	一	二	一	一	三	八
濱田村	四	二	一	一	一	一	一	一	一	四
新屋町	一〇	三〇	二	一	一	二	一	一	二	六
計	五	一〇	二	一	一	二	一	一	四	〇
計	一、一三九	九、四九三	二、七〇〇	三、〇〇〇	五、四〇〇	八、七〇〇	四、六〇〇	七、四〇〇	五、二〇〇	五、二〇〇
計	七、五〇八	二、七〇〇	三、三〇〇	三、七〇〇	六、〇〇〇	二、五〇〇	六、一五〇	五、二九六	一〇、五〇〇	四、二四〇
計	一〇八	六〇二	五三	一	九五	二二	一〇	一〇	一〇	四
計	七三	一、九一八	二三八	一五	一五〇	五〇	一〇〇	二〇〇	二五〇	二五〇
計	一一〇	八九六	九一	一	二五〇	二〇	一四七	四〇	一九六	一九六
計	七三七	二、二九	三〇七	一	二五七	八二	二九四	九〇	四六	四六
計	二二八	四九八	一四四	三	二四五	四三	一四七	一四五	三〇〇	三〇〇
計	一、四六	四、一三七	五四五	一五	四〇五	一三三	二九四	二九〇	六七六	六七六
計	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

計 統

郡 田 秋 南	郡 本						
	計	濱口村	淺内村	能代港町	東雲村	澤目村	八森村
計	四	二	一	一	一	一	二
計	一六	一九	七	三	一六	一六	三三
計	五〇	四〇	一〇	四〇	三〇	四〇	三〇
計	三三	七、四〇〇	五七六	四九九	五九	三、三二	七三八
計	二、七五五	二、七五五	四、一七	三、八八	三、八九	三、八九	六、一六六
計	二九	二六	一	一	九	三	一
計	六三	二、七三八	一	一	五九	八四	一
計	五	一八二	三〇	四	八〇	二五	一八五
計	二四	二八〇	四〇	一〇	一七〇	三	一八〇
計	一八二	一六三	三七	三	七九	一三五〇	一三五〇
計	八六五	四七五	四〇	二五	二五	二五	二五
計	一	一	一	一	一	一	一
計	一	一	一	一	一	一	一

種類	目		種類	目	
	数量	價格		数量	價格
わかさぎ	一六、二七〇	二五、六五五	まげせ	一四、三三四	八、〇五四
こり	一四、〇二〇	三〇、〇六三	なまづ	一三、四一六	一、五三〇
ほら	六九、五五〇	二八、二九六	さなま	二、九〇五	一、四〇八
ふな	一四九、五五〇	二四、三九六	さけ	一、五七五	一、〇〇〇
あな	二四、九三〇	一七、九二三	にこ	一〇五	六
らび	六四、〇〇〇	二六、〇五〇	たご	一〇〇	三
しら	三八、一五〇	一五、四三七	しな	三〇、八五〇	一、七〇〇
うな			藻類	九八二、八八〇	三二四、五八一
合計	二〇、一〇	七、九六七	合計	二、六六三	五、六四九

果計 貳拾參萬七千貳百壹圓

九、八郎湖漁獲高表 (大正四年調)

郡	山	鹿	森	鵜	濱	計	南	秋	田	郡
濱	鵜	森	鹿	濱	計	計	面	一	大	下
口	川	岳	渡	計	計	計	湯	日	川	井
濱	村	村	村	計	計	計	村	市	村	河
六、一六	二、二〇	一、一四	九	二、〇八	三、〇〇	三				
二、五五四	五九八	五七五	五四三	八三九	五、四三四	五〇五				
一八、六四七	四、一四七	四、五七八	三、四七八	六、四四四	三八、〇五〇	三、四三二				
三二	一三	六五	二〇	一〇五	三八二	三〇				
一、五二	五二〇	二〇二	一三三	七六六	一、五二五	五二				
三六	一三五	一三			四六五	五五				
七九	一七	一三			二、五四三	一三三				
一、五九	三三〇	一三九	一〇〇	一三三	四、八四六	一六八				
					〇、八四六	三五				

大正五年十月十五日印刷
大正五年十月二十日發行

秋田縣水產試驗場

印刷者 那波宗七

秋田市茶町梅之丁二十一番地
印刷所 秋津活版印刷所

那波合資會社
電話百七十番

14.21
8/2

終

